

共通教育科目カリキュラムマップ
(文化表現学部、心理こども学部、食文化学部用)

I 到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
①キリスト教精神に基づく人間理解を深め、生き方など現実の問題等に結び付けて考える力								
②社会人に必要な基本的知識や技能、行動様式、コミュニケーション能力、就業力等を身につけて社会性の基盤を培い、これを社会の発展等に活用できる力								
③専門的な学習の基盤となる幅広い学問的知識や技能を身につけて、総合的に判断し、主体的に行動できる力								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段:到達目標(DP)					
			下段:梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
キリスト教科目	聖書の世界	旧約聖書の歴史や物語を知り、異文化間に生きる国際人としての基礎的教養を身につける。また新約聖書の物語やイエスの教えを通じてキリスト教の愛の教えを本質的な点で理解し、これによりキリスト教主義に立つ梅花女子大学での学びをより豊かなものとする。	○	○	○			
	澤山保羅と建学の精神	キリスト教一般の中で本学創立者と建学の精神とがどのような位置にあるのかを理解することで、この大学で学ぶための基本的な姿勢と、梅花女子大学生としてのアイデンティティーとを養う。	○	○	○			○
キャリア基礎科目	初年次セミナー I	話を聞くだけでなく、テキストを読む、意見を述べる、話し合う、発表する、メモを取る、情報を整理する、意見を書く、といったことができるようになるり、さらに共同作業で初歩的なプレゼンテーションができるようになることが目標である。		○				
	初年次セミナー II	①マインドマップやマトリックス、包含図などを使いこなして分析したり、ひとと議論できるようになること、②議論の結果をまとめて人前でプレゼンテーションできるようになることが目標である。		○		○	○	
	問題発見・解決セミナー I	身近なところにある問題を発見する経験を積み、テーマが決まったら、到達目標を定め企画書にまとめる力をつける。さらに情報の整理とディスカッション能力、グループメンバーの役割分担と協力体制の確立、プレゼンテーション能力のスキルアップをめざす。		○	○	○	○	
	問題発見・解決セミナー II	現実社会から問題を発見し、調査や討論によりその解決策をよりよいものにしていく体験を積む。説得力を持ったプレゼンテーションにするためには協同して調査し行動することが必要であることを学ぶ。		○	○	○	○	
	キャリアデザイン	①社会で求められる基礎的な数的処理能力、言語能力を身につける②自分を知り、社会で求められる力を知る③様々なワークスタイルを知る④マナーを身につけ就職活動の流れを知る⑤目標を実行に移せる。	○	○	○	○		
	キャリアサポート	より良い人生を歩むために必要な知識と、自分で自分の人生をデザインできる考え方を身につける。		○	○			
	美しい日本語(話し方)	美しい日本語の発声発音の理解と敬語表現を学び、伝わりやすく、より女性らしいおしゃべりな話し方を身につける。	○	○	○	○	○	
	美しい日本語(書き方)	読み手にとって、わかりやすい日本語の文章を書けるようになることが目標である。	○	○	○	○		○
情報科目	情報処理演習 I	必要な情報を的確に伝達するための文章作成の方法を習得するとともに、その内容をより分かりやすくするための画像などの活用方法を習得する。	○	○	○	○		○
	情報処理演習 II	必要な数値を正確に算出するための表計算の方法を習得するとともに、その内容を「見える化」するためのグラフなどの活用方法を習得する。	○	○	○	○		○
グローバルコミ	英語会話 I	TOEIC 300~400取得可能な英語力を目指す。TOEIC Part1写真描写問題のように、写真や絵を見て状況を説明出来る英語力の取得を目指す。		○		○		○
	英語会話 II	TOEIC400~450取得可能な英語力を目指す。TOEIC Part2応答問題のように、質問に対して会話のテンポを落とさず事なく、すぐに返答できる英語力の取得を目指す。		○		○		○

コミュニケーション科目	英語会話Ⅲ	コミュニケーションと語彙構築のアクティビティを通じて基本的な英語力を向上することを目標とする。理解のための基本パターンを使って、教室の内外で英語の会話で生き抜く方法を習得する。		○			○		○
	英語会話Ⅳ	コミュニケーションと語彙構築のアクティビティを通じて基本的な英語力を向上することを目標とする。理解のための基本パターンを使って、教室の内外で英語の会話で生き抜く方法を習得する。		○			○		○
スポーツ科目	健康とスポーツ(実技)	心身ともに健康な活力を培うために、人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識について、実践研究をとおして修得することを目標とする。技術向上よりもいろいろな身体活動を体験する楽しみから、人とのコミュニケーションを図る。		○			○	○	
	健康とスポーツ(理論)	自分自身にあったスポーツ活動についてプログラミングができるようになることを目標とする。		○			○	○	
	生涯スポーツ	卓球、ニュースポーツゲームを通して、身体活動の必要性和楽しさを味わう。		○			○	○	
	バレエⅠ(入門)	体幹を鍛え、美しい姿勢や歩き方を身につける。レッスンマナーを学び、周りの人へ思いやりのある精神面でも高い女性を目指す。		○				○	
	バレエⅡ(基礎)	体幹を鍛え、美しい姿勢や歩き方を身につける。グループワークと課題は全員で取り組み、一つのものをつくる達成感を味わう。		○				○	
	ダンスⅠ	身体の使い方の基礎、各種のステップ、レパートリーワーク、作品の見方、味わい方、踊り方を学びグループにより作品発表によって自己開示、他者理解を深めて、個人技能の獲得と身体のコミュニケーション能力を高める。		○				○	○
	ダンスⅡ	ストレッチングの理論と実践エクササイズ理論と実践アイソレーション・リズムトレーニング・基本ステップ・ステップコンビネーション以上を毎時間実施し、最終的にはショートプログラムの振り付けを完成させる。		○				○	○
	ミュージカルⅠ	①プロとして通用する、音程、リズム感、歌唱力、表現力を身につける。 ②役者として、舞台、公演などで通用する、声の力、演技力、台詞力。その場、相手に反応できる力を身につける。 ③表現としてのダンス、それができるための身体を身につける。		○				○	○
	ミュージカルⅡ	テクニックだけでなく、ひとりの表現者としての意識を持ち、歌、踊り、演技に、関わっていくこと。それを、日常に生かしていくことを目指す。		○				○	○
	ミュージカル総合Ⅰ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		○		○		○	
	ミュージカル総合Ⅱ	舞台に必要な動きを複合的に学ぶことで舞台人としての素地を身につけながら、個々のもっているスキルを向上させる。		○		○		○	
	ミュージカル総合Ⅲ	プロとして通用する舞台創りのため、①歌、台詞、踊り、基本テクニックを習得する。②表現力を身につける。③コミュニケーション能力をつける。		○		○		○	○
	ミュージカル総合Ⅳ	公演の成功体験を通して、技術、精神力の向上を目指す。		○		○		○	○
	ミュージカル総合Ⅴ	公演の成功、社会貢献などを通じて、それぞれ自身の人間的成長、技術的成長、チームワーク、やりとげる力を養う。		○		○		○	○
	ミュージカル総合Ⅵ	より質の高い公演を成功させる過程を通じて、自身も表現者となり、人間的にも成長することを目標とする。		○		○		○	○
	舞台技術	舞台美術、照明、音響、衣装など舞台づくりに欠かせない基礎知識を理解したうえで、舞台に立つ者の立場、演出する立場など、それぞれの役割のなかでの舞台技術の重要性を理解する。		○		○		○	○
	英語会話(日常編)	コース終了までに学生が日常のトピックスについて流暢に話すことができるのが目標である。新たに約100個の便利な単語を学び、文脈の中でそれらを使うことができるようにする。		○				○	○
英語会話(旅行編)	旅行中に起きる疑問を質問したり、基本的な情報について理解できるようになるのがこのコースの目標である。新たに約150個の便利な単語を学び、文脈の中でそれらを使うことができるようにする。		○				○	○	

教養科目

フランス語会話(日常編)	話したい内容を基本的語句、表現で伝えられる。日常生活で役立つ表現を理解し、基本的対応ができるようにする。簡単なフランス語文が読める。簡単なフランス語文が書けるようにする。		○							
フランス語会話(旅行編)	話したい内容を基本的語句、表現で伝えられる。旅行で役立つ表現を理解し、基本的対応ができるようにする。簡単なフランス語文が読める。簡単なフランス語文が書けるようにする。		○							
中国語会話(日常編)	中国語の正確な発音を身に着け、基本文法を理解し、簡単な会話ができるようにする。		○							
中国語会話(旅行編)	中国語の正確な発音を身に着け、基本文法を理解し、簡単な会話ができるようにする。		○							
ハングル講座(日常編)	①韓国語で自己紹介ができる。②日常生活で活用できる基礎会話能力を身につけることが目標である。		○							
ハングル講座(旅行編)	①韓国語で自己紹介ができる。②旅行先で活用できる基礎会話能力を身につけることが目標である。		○							
日本語Ⅰ	大学生活において必要な日本語を、読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目標である。		○							
日本語Ⅱ	大学における学習に必要なやや高度な日本語を、読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目標である。		○							
日本語Ⅲ	学術的でやや高度な日本語を読み、書き、それについて基本的なディスカッションや内容紹介のプレゼンテーションができるようになることが目標である。		○							
日本語Ⅳ	学術的で高度な日本語を読み、書き、それについて深いディスカッションや独自のプレゼンテーションが行えるようになることが目標である。		○							
手話入門	挨拶や自己紹介などの簡単な日常会話が手話出来るように目指す。この学習を通して、聴覚障害の障害理解をし、どのような配慮をしたら良いかを考える視点を育てる。さらに、日常のコミュニケーションをより大切に、自分の気持ちを相手に豊かに届けることを目指す。		○							
女性と法	現代社会における女性に対する様々な人権侵害に気付き、それらを身近な問題として考え、多角的に分析する力を身につける。さらに諸問題の改善策、解決策を考える力を養う。		○	○						
先輩に学ぶ女性の生き方	①先輩諸氏の体験談を聞くことにより、今後の学び方・生き方の指針とする。②「聴く」「書く」「話す」「調べる」技術を身につける。		○	○						
ワークライフバランス	より良い人生を歩むために必要な知識と、自分で自分の人生をデザインできる考え方を身につける。		○	○						
硬筆入門	文字のもつ美を理論的にまた技術的に追求し、実用的な書写技術の向上をはかる。		○							
ビジネスマナー入門	実社会に必要なビジネスマナーの基本を理解し、習得を目指す。		○							
図書館の文化史	①日本及び世界の図書館の歴史と発展について理解を深める。②紙以前の記録メディアの誕生から近代のメディアに至る発展の過程を学び、理解する。③図書館と社会のかかわりについて知り、図書館の役割を考えられるようになる。		○							
日本の文化	①日本の文化・歴史に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。②歴史的なものの見方・考え方に立って現代社会を相対化することで、現代日本の社会や文化について豊かな見方ができるような力量を身につける。		○							
世界のファッション	毎日の必需品としている消耗品としての衣服が、実は人類が生きてきた証を表象しているものとして捉えることができることを認識する。		○	○						
世界食紀行	異文化理解の重要性をふまえ、多文化共存社会の未来のあり方について考えられるようになる。		○							
憲法と人権	①憲法が保障する基本的人権の意味や意義を理解する。②各種の人権問題に関心を持ち、理解に努める。③各種の人権問題の解決方法を模索し、自分なりの意見を持つ。		○	○						
人間と法(法学)	裁判での争点を理解し、社会における具体的な「法」の役割に気づくとともに、自ら考える力を身につけることを目標とする。		○	○						

政治学	①新聞などで報道される政治に関するニュースが、理解できるようになること。②社会問題や政治に関して、きちんとした理由や歴史的経緯などを踏まえたうえで、自分自身の意見を確立できるようになること。③社会科学に関する基礎的知識を習得すること。		○	○			
		○	○	○			○
物質と宇宙	世の中の不思議を科学者がどのように解明してきたかを学ぶことで、自然を科学的に眺める方法を身に付けつつ、またその科学にも限界があることを知る。それにより、物事を鵜呑みにしない科学的態度を養う。		○				
		○	○	○			
生物・化学の基礎	①生命体を構成する物質を列挙し説明できる。②細胞や遺伝子の構造と機能を説明できる③細胞の増殖と分化、細胞内の代謝と細胞呼吸を説明できる。④生殖と発生、成長と老化を説明できる。⑤個体の維持について例をあげて説明できる。⑥遺伝のしくみを説明できる。		○				
			○	○			
情報科学	情報という概念を知り、それを利用できるコンピュータの基礎を理解する。そして、それを理解した上で、安全に利用し、活用できるようになることが目標である。		○	○			
			○	○	○		○
数の世界	数にかかわる問題に、自ら手を動かして考えることで、学ぶことの楽しさを知る。		○				
			○	○			
こどもの造形	各自の学んでいる学部・学科の内容と幼児教育を組み合わせる事で、社会に出てからのスキルアップにつなげてもらう。それにより自分達のキャリアデザインの可能性を飛躍させることを目指す。		○				
		○	○	○	○	○	
アニマルセラピー入門	アニマルセラピーに対して自分自身の意見、立場を表明できるようになることが目標である。		○	○			
		○	○	○	○		
ボランティア入門	①ボランティア活動が個人の生活および地域社会にもたらす意味を理解する。②ボランティア活動と様々な世界との「つながり」を知る。		○	○			
		○	○		○	○	○
歯科健康教育	口腔の機能を知り、自分自身の口腔管理ができるようになることが目標である。		○				
		○	○	○	○	○	

(看護保健学部用)

キリスト教科目	キリスト教学Ⅰ	キリスト教一般の中で本学創立者と建学の精神とがどのような位置にあるのかを理解することで、この大学で学ぶための基本的な姿勢と、梅花女子大学生としてのアイデンティティーとを養う。	○		○		
			○		○		○
キリスト教科目	キリスト教学Ⅱ	旧約聖書の歴史や物語を知り、異文化間に生きる国際人としての基礎的教養を身につける。また、新約聖書の物語やイエスの教えを通じてキリスト教の愛の教えを本質的な点で理解し、これによりキリスト教主義に立つ梅花女子大学での学びをより豊かなものとする。	○		○		
			○		○		○
基礎カリキュラム	BAIKAセミナー	話を聞くだけでなく、テキストを読む、意見を述べる、話し合う、発表する、メモを取る、情報を整理する、意見を書く、といったことができるようになるり、さらに共同作業で初歩的なプレゼンテーションができるようになることが目標である。		○			
				○	○	○	○
スポーツ科目	基礎スポーツA	心身ともに健康な活力を培うために、人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識について、実践研究をとおして修得することを目標とする。技術向上よりもいろいろな身体活動を体験する楽しみから、人とのコミュニケーションを図る。		○			
			○	○	○	○	○
	基礎スポーツB	心身ともに健康な活力を培うために、人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識について、実践研究をとおして修得することを目標とする。技術向上よりもいろいろな身体活動を体験する楽しみから、人とのコミュニケーションを図る。		○			
			○	○	○	○	○
	応用スポーツ(バドミントン)	「だれもが、いつでも、どこでも」楽しむことのできる身近なスポーツ文化として、種目の理解を深め、ゲームを楽しむ。また、友だちとのコミュニケーションを図る。		○			
			○	○	○	○	○
応用スポーツ(テニス)	「だれもが、いつでも、どこでも」楽しむことのできる生涯スポーツとしてテニスを実践し、集団行動を通して今後の社会生活に必要なソーシャルスキルを修得する。		○				
		○	○	○	○	○	
応用スポーツ(卓球・ニュースポーツ)	卓球、ニュースポーツを通して、身体活動の必要性と楽しさを味わう。		○				
		○	○	○	○	○	
情報	コンピュータ実習A	必要な情報を的確に伝達するための文章作成の方法を習得するとともに、その内容をより分かりやすくするための画像などの活用方法を習得する。		○			
			○	○	○	○	○

科目	コンピュータ実習B	必要な数値を正確に算出するための表計算の方法を習得するとともに、その内容を「見える化」するためのグラフなどの活用方法を習得する。		○					
			○	○	○	○			○
外国語科目	英語ⅠA	基礎的な英語を読んだり聞いたりして、その内容を正確に理解することができるようになる。		○					
					○	○			○
	英語ⅠB	基礎的な英語を読んだり聞いたりして、その内容を正確に理解することができるようになる。		○					
					○	○			○
	英語ⅡA	英語Ⅰで習得した英語力を基に、更に高度な英語の読解力・聴解力を身に付ける。		○					
					○	○			○
	英語ⅡB	英語Ⅰで習得した英語力を基に、更に高度な英語の読解力・聴解力を身に付ける。		○					
					○	○			○
	英語会話Ⅰ	コース終了までに学生が日常のトピックスについて流暢に話すことができるのが目標である。新たに約100個の便利な単語を学び、文脈の中でそれらを使うことができるようにする。		○					
						○	○		○
	英語会話Ⅱ	旅行中に起きる疑問を質問したり、基本的な情報について理解できるようになるのがこのコースの目標である。新たに約150個の便利な単語を学び、文脈の中でそれらを使うことができるようにする。		○					
						○	○		○
フランス語会話Ⅰ	話したい内容を基本的語句、表現で伝えられる。日常生活で役立つ表現を理解し、基本的対応ができるようにする。簡単なフランス語文が読める。簡単なフランス語文が書けるようにする。		○						
					○	○		○	
フランス語会話Ⅱ	話したい内容を基本的語句、表現で伝えられる。旅行で役立つ表現を理解し、基本的対応ができるようにする。簡単なフランス語文が読める。簡単なフランス語文が書けるようにする。		○						
					○	○		○	
中国語会話Ⅰ	中国語の正確な発音を身に付け、基本文法を理解し、簡単な会話ができるようにする。		○						
			○	○				○	
中国語会話Ⅱ	中国語の正確な発音を身に付け、基本文法を理解し、簡単な会話ができるようにする。		○						
			○	○				○	
ハングルⅠ	①韓国語で自己紹介ができる。②日常生活で活用できる基礎会話能力を身につけることが目標である。		○						
			○					○	
ハングルⅡ	①韓国語で自己紹介ができる。②旅行先で活用できる基礎会話能力を身につけることが目標である。		○						
			○					○	
	日本の歴史	授業の前に、あらかじめ配布した資料を読み、授業でその内容を確認・解釈し、授業終了後に文章にまとめるという作業を通して、歴史的な知識と歴史の見方を身に付けることを目標とする。		○	○				
			○	○	○			○	
	アジアの歴史	隣国としての中国に対する理解を深め、興味を持つこと。また、より具体的な知識として、「歴史は現代につながる」という観点から、現代における中国・台湾問題を正確に理解できることを目標とする。		○	○				
			○	○	○			○	
	西洋の歴史	歴史上の問題に気付き、考え、自分の言葉で伝える力を養うことを目標とする。		○	○				
			○	○	○			○	
	日本の美術	日本の伝統的な美術作品に数多く触れ、日本特有の美意識の本質を把握することが出来るようになることを目標とする。		○					
			○		○			○	
	音楽鑑賞法	クラシック音楽への親しみを育てるようになること、そしてそのために必要な最低限の知識を身につけることを目標とする。		○					
			○		○			○	
	住居デザイン	住居デザインに関する基礎知識の理解を目標とする。		○					
			○	○	○			○	
社会心理学入門	①日常生活や人間関係を、社会心理学的に考える視点を身に付ける②他の社会心理学関係の授業への入口として、基礎知識を習得する。		○						
		○	○	○					
憲法と人権	①憲法が保障する基本的人権の意味や意義を理解する。②各種の人権問題に関心を持ち、理解に努める。③各種の人権問題の解決方法を模索し、自分なりの意見を持つ。		○	○					
		○	○	○			○		
人間と法(法学)	裁判での争点を理解し、社会における具体的な「法」の役割に気づくとともに、自ら考える力を身につけることを目標とする。		○	○					
		○	○	○			○		
女性と法	現代社会における女性に対する様々な人権侵害に気付き、それらを身近な問題として考え、多角的に分析する力を身につける。さらに諸問題の改善策、解決策を考える力を養う。		○	○					
		○	○	○			○		
人権問題論入門	人権問題について理解を深めること、自分の意見を持つことを目標とする。		○	○					
		○	○	○			○		

教養科目

政治学	①新聞などで報道される政治に関するニュースが、理解できるようになること。②社会問題や政治に関して、きちんとした理由や歴史的経緯などを踏まえたうえで、自分自身の意見を確立できるようになること。③社会科学に関する基礎的知識を習得すること。		○	○			
		○	○	○			○
数の世界	自ら手を動かして考えること、学ぶことの楽しさを知る。		○				
			○	○			
物質と宇宙	世の中の不思議を科学者がどのように解明してきたかを学ぶことで、自然を科学的に眺める方法を身に付けつつ、またその科学にも限界があることを知る。それにより、物事を鵜呑みにしない科学的態度を養う。		○				
		○	○	○			
女性と生命	①女性のライフサイクル各期の健康課題を理解できる。②女性の健康と環境・社会とを関連づけて考えることができる。③女性の生涯を通じた健康支援について考えることができる。		○	○			
		○	○	○			
情報科学	情報という概念を知り、それを利用できるコンピュータの基礎を理解する。そして、それを理解した上で、安全に利用し、活用できるようになることが目標である。		○				
			○	○	○		○
生物・化学の基礎	①生命体を構成する物質を列挙し説明できる。②細胞や遺伝子の構造と機能を説明できる③細胞の増殖と分化、細胞内の代謝と細胞呼吸を説明できる。④生殖と発生、成長と老化を説明できる。⑤個体の維持について例をあげて説明できる。⑥遺伝のしくみを説明できる。		○				
			○	○			
エコロジー入門	多様な自然環境や共生関係を理解することを目標とする。		○				
		○	○	○			○
先輩に学ぶ女性の生き方	①先輩諸氏の体験談を聞くことにより、今後の学び方・生き方の指針とする。②「聴く」「書く」「話す」「調べる」技術を身につける。		○	○			
		○		○	○		○
キャリア形成	より良い人生を歩むために必要な知識と、自分で自分の人生をデザインできる考え方を身につける。		○	○			
		○	○	○	○		
日常の書(硬筆)	文字のもつ美を理論的にまた技術的に追求し、実用的な書写技術の向上をはかる。		○				
		○	○	○	○		
手話入門	挨拶や自己紹介などの簡単な日常会話が手話出来るように目指す。この学習を通して、聴覚障害の障害理解をし、どのような配慮をしたら良いかを考える視点を育てる。さらに、日常のコミュニケーションをより大切にし、自分の気持ちを相手に豊かに届けることを目指す。		○				
		○	○		○	○	○

文化表現学部 国際英語学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)									
①英語を「話し」、「聴き」、「読み」、「書く」ための基礎的な力									
②英語圏を中心とする異文化を理解する力									
③グローバルな視野から物事を考える力									
④英語を使用する現場で、身につけた知識に基づき英語を適切に運用する力									
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例							
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力							
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力							
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力							
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力							
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力							
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力							
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号						
			上段：到達目標(DP)						
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
学部 共通 科目	ビジネススキル I	企業についての基礎的な概念(企業の種類や仕組み、その成り立ち等)を理解し、説明できる。習得した概念や考え方を実践(事例)において理解する。		○					○
	ビジネススキル II	財務会計分野の基礎的な項目を理解する。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定3級を目指すための基本の知識を身につける。		○					○
	キャリア英語入門 I	文法の正しい知識に基づき、英文の構造を踏まえ、ある程度の長さの英文を速く正確に読むことが目標。また、Readingのみならず、TOEICで高得点が取得できるよう、Listeningの力もつける。	○	○					○
	キャリア英語入門 II	耳ばかりに頼るのではなく、様々なことを頭で判断しながら英文を的確に聴き取る力をつける。この授業で学んだことを、実践的なコミュニケーションの場で活かすことができる。	○	○				○	○
	ビジネスマナー I	ビジネスにおける基本的なマナーを習得し、他者との協調を円滑にする。	○	○	○				○
	ビジネスマナー II	ビジネスにおける実践的なマナーを習得し、他者との相互理解を深めることができる。	○	○	○				○
	図書館情報学概論	図書館の社会的役割について説明できる。各種図書館の特性や利用者ニーズについて解説できる。専門職としての図書館司書の資質と技能を理解する。図書館の自由とは何かを理解し、課題について考察できる。	○	○					○
	図書館サービス概論	図書館サービスの基本的な理解を図る。図書館利用者のニーズを把握し、適切なサービスを提供できる。	○	○			○		○
	図書館制度・経営論	図書館に関わる制度と公共機関の経営の基本的な理解を図る。図書館の社会的重要性を理解する。		○	○			○	
	海外インターンシップ	国内外への団体旅行の添乗員資格である総合旅程管理主任者の資格取得を目指し、海外での実務を体験する。	○	○	○	○		○	○
Speaking Skills I	英語の語彙と文法の力を高め、無理なく自分の考えや意見を述べたり、個人的な情報を尋ねたりできるコミュニケーション技術を身につける。	○	○	○	○		○		
Speaking Skills II	英語の語彙と文法の力を高め、無理なく自分の考えや意見を述べたり、個人的な情報を尋ねたりできるコミュニケーション技術を身につける。	○	○	○	○		○		
Speaking Skills III	会話に必要な英語の基本的な語彙や文法、発音について学ぶ。	○	○	○	○		○		
Speaking Skills IV	英語でのコミュニケーション能力をさらに伸ばす。	○	○	○	○		○		
Speaking Skills V	自信を持って英語でコミュニケーションできるようになる。	○	○	○	○		○		
Speaking Skills VI	自信を持って英語でコミュニケーションできるようになる。	○	○	○	○		○		
Writing Workshop I	英語で基本的なメールが書けるようになる。また、日常的なトピックについて簡単な話を書く力を養う。	○		○	○				
Writing Workshop II	身近なトピックについて2つのパラグラフが書けるようになる。また、10分間で100語程度の英語の文章が書けるよう訓練する。	○		○	○				
Writing Workshop III	自己紹介、故郷や友達について英語で書く。また、英語の技巧を用いて文章が書けるように学ぶ。	○		○	○				
Writing Workshop IV	自分の余暇、子供時代の思い出や将来の夢について英語で書く。また、英語の技巧を用いて文章が書けるように学ぶ。	○		○	○				
英語演習 I	一文一文日本語に訳していくのではなく、ポイントをつかみながら英語のまま文章を理解していくコツを身につける。	○		○	○				
英語演習 II	一文一文日本語に訳していくのではなく、ポイントをつかみながら英語のまま文章を理解していくコツを身につける。	○		○	○				

基本科目

Reading Workshop I	文の基本構造を意識しながら、文頭から英語の語順のまま読む力を身に付け、日本の文化的特徴、欧米の文化との相違を英語を通して理解・発信できるようにする。	○	○		○		
				○	○		○
Reading Workshop II	文の基本構造を意識しながら、文頭から英語の語順のまま読む力を身に付け、日本の文化的特徴、欧米の文化との相違を英語を通して理解・発信できるようにする。	○	○		○		
				○	○		○
留学試験の英語 I	TOEFL(ITP)の試験で高得点を取得する。	○			○		
			○		○		○
留学試験の英語 II	TOEFL(ITP)の試験で高得点を取得する。	○			○		
			○		○		○
英語圏の文学 I	文学作品とはたじろぐものではなく、楽しむものだということがわかる。詩を読むということが、どういう作業で成り立っているのかわかる。また、読んだ作品について、自分の意見を表現できるようにする。		○		○		
			○	○			○
英語圏の文学 II	イギリスを舞台に女性たちがどのように生きたかを文学作品を通して考える。現代を生きる私たちのヒントになれば幸いである。		○	○			
			○	○			○
言語学 I	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
			○	○	○		
言語学 II	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
			○	○	○		
英語史	英語の歴史の正しく理解する。	○	○		○		
			○	○	○		○
英文法 I	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
			○	○	○		
英文法 II	英語で理解し、発信するために必要な基本的な文構造を正確に把握する。	○	○		○		
			○	○	○		
Global English Seminar I 1	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○		○		
			○		○	○	○
Global English Seminar I 2	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○		○		
			○		○	○	○
Global English Seminar I 3	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○		○		
			○		○	○	○
Global English Seminar II 1	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○		○		
			○		○	○	○
Global English Seminar II 2	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○		○		
			○		○	○	○
Global English Seminar II 3	担当教員の専門領域に応じ、英語・英語圏に関する語学・文化・文学の分野を深く学ぶ。	○	○		○		
			○		○	○	○
TOEIC I	TOEIC 550点以上をとれるようにする。	○			○		
			○		○		○
TOEIC II	TOEIC 550点以上をとれるようにする。	○			○		
			○		○		○
卒業研究 I	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○		○		
			○	○	○		○
卒業研究 II	各自が選んだテーマに沿って、担当教員の指導のもと、卒業論文・卒業創作を完成させる。	○	○		○		
			○	○	○		○
Introduction to American Studies	アメリカ、および、その国民や文化について紹介する。		○		○		
					○	○	○
Introduction to British Studies	講義、講読や議論によって授業は進められる。受講生には英語のスピーチが課せられる。		○		○		
			○		○		○
Introduction to Australian Studies	オーストラリアについての基礎的な情報を英語で講義する。	○	○		○		
					○	○	
Introduction to Canadian Studies	カナダについての基礎的な情報を学ぶ。	○	○		○		
			○		○		○
Popular Culture in the English-Speaking World	ポップスを通して英米のポップカルチャーや最近の出来事を学ぶ。	○	○		○		
			○		○		
Exploring Culture through TV Dramas	マスメディアを通してアメリカ文化を学ぶ。特にアメリカの家族がどのように変化してきたか、またメディアが家族観やその現実をどのように変えてきたかに焦点を当てる。	○	○		○		
					○	○	○
American Studies	アメリカの歴史と文化を学ぶことによって、文化に対する意識を高める。	○	○		○		
					○	○	○
British Studies	講義、講読や議論によって授業は進められる。受講生には英語のスピーチが課せられる。		○		○		
			○		○		○
Australian Studies	オーストラリアの映画を通して、この国や人々について学ぶ。	○	○		○		
			○		○		

発展科目	Canadian Studies	カナダの人々がどのように生活し、働き、余暇を過ごすかを学ぶ。それぞれのトピックにはオンラインレッスン(テストを含む)がある。	○	○	○	○			
	The World Today: Discussion of Current Topics	最新のトピックについて学ぶ。	○	○	○	○		○	
	Media and Culture in Society	現代の文化、ソーシャルメディアや広告、マスメディアについて学ぶ。	○	○	○	○			
	Women in Society: Past and Present	異なる文化や時代の女性たちの生活に影響を与える状況の理解を深める。	○	○	○	○		○	
	海外実習オリエンテーション	海外実習の準備を支援すると同時に、日本の様々な観点について、その文化的意義に興味を抱くよう指導する。	○	○	○	○		○	
	海外実習	異文化に触れて視野を広げるとともに、実習校において英語の授業を受けることで、英語力を向上させる。	○	○	○	○		○	
	英語圏の映画Ⅰ	ロバート・ゼメキスの映画を通して、現代アメリカの歴史や文化を学ぶ。また、映画制作についても考察する。	○	○	○	○			
	英語圏の映画Ⅱ	映画を通して、アメリカのマイノリティについて学ぶ。また、映画制作についても考察する。	○	○	○	○			
	海外修得単位	異文化に触れて視野を広げるとともに、実習校において英語の授業を受けることで、英語力を向上させる。	○	○	○	○		○	
	観光英語Ⅰ	観光英語検定2級相当の学力をつけること。特にリスニング問題やディクテーションを繰り返すことにより、英語を「聴く」力をしっかりと身につける。	○	○	○	○		○	
	観光英語Ⅱ	観光英語検定2級相当の学力をつけること。特にリスニング問題やディクテーションを繰り返すことにより、英語を「聴く」力をしっかりと身につける。	○	○	○	○		○	
	世界遺産を学ぶ	世界遺産検定での3級資格取得を目指す。観光業への就職を目指す方だけでなくグローバルな視点を持った人材であることの証明として、資格を身につける。	○	○	○	○		○	
	ホスピタリティ	ホスピタリティの基本的な概念を把握する。 ホスピタリティの語源と歴史との関連性について理解する。 ホスピタリティ産業におけるホスピタリティの役割や特徴を理解する。	○	○	○	○		○	
	エアライン業務	航空業界に関する知識を身につける。プレゼンテーション力、課題遂行力、文章表現力など社会人基礎力を身につける。	○	○	○	○		○	
	エアライン業界研究	エアライン業界の全体像を把握し、より実践的な知識を身につける。	○	○	○	○		○	
	こども英語教育論	①家庭内での英語教育が幼稚園等でどのような違いがあるか理解する。②教育のための手段方法を学ぶ。	○	○	○	○		○	
	発音クリニック	①日本語と英語の音の違いを、まず日本語音声で捉え理解を深めた上で、英語の正しい発音を習得する。 ②英語らしいスピーキングのために基本的なリズム・アクセントやイントネーションを習得する。	○	○	○	○			
	ことばの習得	言語習得の知識を深め、言語学習に対してどのような学習方法が適切であるか、自分の意見を述べるようにする。	○	○	○	○			
	教材研究と指導	児童英語教師としての資質を養う。	○	○	○	○		○	
	こどもの心理学	発達、子育て、教育の観点から、心理学の理論や考え方を学ぶ。日常生活の中で、授業で学んだことを活用する。	○	○	○	○		○	
	こども英語教育演習	英語教育を行っている幼稚園を訪問し、実際に参観する。加えて事前および事後学習を通して、教室内で学んだことを実際の教育現場で活かせる実践力を培う。	○	○	○	○			
	資格関係	英語科教育法Ⅰ	英語科教育法の流れをつかみ、さまざまな教育法に触れる。学習指導要領が求める授業レベルを実現するために、より良い教育法を考える。	○	○	○	○		○
		英語科教育法Ⅱ	学習指導要領が求めるような指導をどのようにしたらできるかを考える。	○	○	○	○		○
		英語科教育法Ⅲ	自分なりに考えた授業の指導案を作り実際に模擬授業を行う。	○	○	○	○		○
		英語科教育法Ⅳ	自分なりに考えた授業の指導案を作り実際に模擬授業を行う。	○	○	○	○		○
	卒業論文・卒業創作	各自が選んだテーマに沿って、論文執筆または作品創作をする。	○	○	○	○		○	

文化表現学部 日本文化創造学科のカリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)									
① 歴史や文学、日本語や日本文化についての知識・観察力・調査力・問題発見解決能力・論理的思考力。									
② 日本語を中心とするコミュニケーション力・表現力。									
③ 国語や書道を教授できる知識・技術・指導力。									
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例							
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力							
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力							
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力							
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力							
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力							
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力							
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号						
			上段：到達目標(DP)						
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
学部 共通 科目	ビジネススキル I	企業についての基礎的な概念(企業の種類や仕組み、その成り立ち等)を理解し、説明できる。習得した概念や考え方を実践(事例)において理解する。		○					○
	ビジネススキル II	財務会計分野の基礎的な項目を理解する。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定3級を目指すための基本の知識を身につける。		○					○
	キャリア英語入門 I	文法の正しい知識に基づき、英文の構造を踏まえ、ある程度の長さの英文を速く正確に読める。Readingのみならず、TOEICで高得点が取得できるよう、Listeningの力もつける。	○	○					○
	キャリア英語入門 II	耳ばかりに頼るのではなく、様々なことを頭で判断しながら英文を的確に聴き取る力をつける。この授業で学んだことを、実践的なコミュニケーションの場で活かすことができる。	○	○					○
	ビジネスマナー I	ビジネスにおける基本的なマナーを習得し、他者との協調を円滑にする。	○	○	○				○
	ビジネスマナー II	ビジネスにおける実践的なマナーを習得し、他者との相互理解を深めることができる。	○	○	○				○
	図書館情報学概論	図書館の社会的役割について説明できる。各種図書館の特性や利用者ニーズについて解説できる。専門職としての図書館司書の資質と技能を理解する。図書館の自由とは何かを理解し、課題について考察できる。	○	○					○
	図書館サービス概論	図書館サービスの基本的な理解を図る。図書館利用者のニーズを把握し、適切なサービスを提供できる。	○	○			○		○
	図書館制度・経営論	図書館に関わる制度と公共機関の経営の基本的な理解を図る。図書館の社会的重要性を理解する。		○				○	
	海外インターンシップ	国内外への団体旅行の添乗員資格である総合旅程管理主任者の資格取得を目指し、海外での実務を体験する。	○	○	○		○	○	○
日本文学入門	『古事記』上巻に記された神話を読むことで、日本人がアジアを視野に入れて育んだ世界と表現の特徴を知る。	○	○	○				○	
日本語学入門	日本語の基礎的知識を身につけ、ことばの科学的な見方、研究を理解し、自分のことばの使い方を磨く。	○	○	○				○	
日本語トレーニング(読む・書く)	用語と表記法・文章を書く手順・手紙文の形式などを学ぶことにより、書くことについての基礎的な知識及び能力を身につける。	○	○	○				○	
日本語トレーニング(話す・聴く)	発音・発声、話し方の基本的な知識及び技術を学び、公の場でスムーズに話すことのできる表現力を身につける。	○	○	○				○	
日本文学の歴史(古典)	歴史の流れと日本古典文学の流れがどのように関連しているかを理解する。各時代における作品や作者の傾向を把握する。テキストに出てくる用語や熟語の意味を正確に把握する。	○		○			○		
日本文学の歴史(近代)	おおまかな近・現代日本文学史を理解するとともに、代表的な作家やその代表作について知る。	○		○				○	
漢文を読む I	返り点・送り仮名が施された簡単な文章を正しく読めるようにする。	○		○				○	
漢文を読む II	主な句法を一通りマスターし、返り点や送り仮名の施された漢文を、正確に読めるようにする。	○		○				○	
書写研究	学習指導要領における小・中学校国語科書写の目標、内容を理解し、学習指導に必要な基本となる知識を身につける。実習を通して書写能力を高め、指導法や評価法について理解を深める。	○	○	○			○	○	
書道の基礎(国免)	中学校の国語書写について概要を理解する。学習指導に必要な基礎的な知識を学び、実習を通して実技力を高める。	○		○				○	
現代の日本語	話しことばの特徴を知り、日本語と日本人の考え方の関係を考え、理解し、いろいろな表現に関心を持ち、調査・研究の能力を高める。	○	○	○				○	

基本科目

基本科目	古典の日本語	現代語とは異なる古典語の知識を深め、言語文化を探る方法を習得し、古典に親しむ態度を涵し、異なる文化や言語の人に説明できるようになる。	○	○	○			
	日本語演習Ⅰ	各種辞典の良し悪しを知り、また使い分けができるようになる。外来語の知識を増やし、外来語の問題を意識して、他者に通じる語の選択ができるようになる。	○	○	○	○		○
	日本語演習Ⅱ	各種辞典の良し悪しを知り、また使い分けができるようになる。外来語の知識を増やし、外来語の問題を意識して、他者に通じる語の選択ができるようになる。	○	○	○	○		○
	中国文学の歴史	中国史の時代的な流れを正確に把握する。各時代の代表的な作品の形式や、内容的特徴などを確実に把握する。中国文学と日本文学の関連について、その実例に触れるとともに、両者の関係の深さを理解する。	○		○			○
	手話言語論	手話と音声言語の違いを理解すると同時に手話を使う聾者を理解する。さらに聾者の言語権を理解し、聾者とコミュニケーションがとれる。	○	○	○	○	○	○
	留学生のための日本文化	日本での留学生活に必要な基本事項について知る。レポート作成等の方法を身につける。	○	○				○
	専門演習Ⅰ	各専門分野における研究、創作に必要な知識と能力を身につける。プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○	○	○	○
	専門演習Ⅰ(書道)	草書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			○
	専門演習Ⅱ	各専門分野における研究、創作に必要な知識と能力を身につける。プレゼンテーションや討論の能力と作法を身につける。	○	○	○	○	○	○
	専門演習Ⅱ(書道)	書の美を構成する要素を理解し、基礎を踏まえて自分らしさのある作品を作る。	○	○	○	○		
	卒業演習Ⅰ	各専門分野における研究、創作の集大成としての卒業論文、卒業創作のテーマを設定し、構成の見通しを得る。	○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅰ(書道)	自分の理想とする仮名書美の姿を明確にし、そこにたどり着くためのプロセスを具体化しながら制作する。	○	○	○	○		
	卒業演習Ⅱ	各専門分野における研究、創作の集大成としての卒業論文、卒業創作を完成させる。	○	○	○	○		○
	卒業演習Ⅱ(書道)	漢字分野を中心に、集大成としての卒業制作を創る。自分の書道観を確立する。	○	○	○	○		○
	基本科目	日本文化の歴史	宗教と関わって発展してきた日本の文化に関する基本的な知識を身につける。	○		○		
マンガで学ぶ日本の歴史と文学		出典となる文献とマンガを読み比べることで、作者たちの関心の所在と表現の特徴を知る。	○		○			○
旅と歴史		過去の日本人の「旅」について、歴史的な視点から分析し、旅の意義や現代との共通点・相違点を考察する。歴史史料(絵巻物・文学作品など)を読解し、史料(資料)から情報を抽出する能力を身につける。	○		○			○
作品を読む(古典)		古典作品の音読に慣れ、文章の大意をつかみ、作品に記された内容を正確に把握する。作品の背景にある当時の人々の生活やものの見方、考え方を理解する。	○		○	○		○
作品を読む(近現代)		小説にはどのようなテクニックが用いられているかを知るとともに、作品を精読する楽しさを味わう。	○		○			○
伝統文化		日本の伝統文化の成り立ちや在り方を知る。その特質としての多様性や重層性、革新性を理解する。	○		○			○
歴史を探る		平安時代～戦国時代の「武士」をテーマとする基礎的な史料(資料)を読みときながら、情報を整理し、深く分析する方法を学ぶ。歴史的なものの見方・捉え方を身につける。	○	○	○			○
関西の歴史と文化		関西、主に京都を舞台とする歴史や文化の専門的な知識を身につける。過去の日本について学ぶ中で、現在の価値観に縛られず、常識的な見方を相対化できる能力を身につける。	○		○			○
日本文学演習(古典)Ⅰ		『万葉集』の基本的な読み方を身につける。	○	○	○	○	○	○
日本文学演習(古典)Ⅱ		歌の個々に認められる、表現の特徴と個性を知る。	○	○	○	○	○	○
日本文学演習(近現代)Ⅰ		作品を精読する楽しさを味わうとともに、作品研究の能力を身につける。	○	○	○	○	○	○
日本文学演習(近現代)Ⅱ		作品を精読する楽しさを味わうとともに、作品研究の能力を身につける。	○	○	○	○	○	○
歴史文化フィールドワーク		講義や事前調査で得た知識・情報をもとに、歴史や文化が育まれた現場を訪れて体験し、一つの問題を深く追究する方法を学ぶ。事前調査・発表・実習後の振り返りを通じて、情報を収集し、それを整理できる能力を身につける。	○	○	○	○	○	○

発展科目

観光フィールドワーク	実習の行程を計画して企画書を作成し、それをプレゼンテーションする中で、実践的な企画力・発信力を身につける。事前調査・実習により訪問先の歴史・文化を深く学び、専門的な知識に基づいた観光コースの立案ができるようになる。	○	○				
		○	○	○	○	○	○
創作の基礎	日本語の音やリズムを意識しながら、様々なスタイルの文章を作成する。社会事象を調査・取材し、考察したことを創作に反映させる。	○	○				
		○	○	○	○		
作品を創る I	パソコンを利用する際の常識を理解する。作品の個人出版のためのデータ編集作業の技術を身につけ、Webで自在にデータをやりとりしたり、自分のHPを立ち上げられるようになる	○	○				
			○	○	○		○
作品を創る II	パソコンを使って、短編作品の創作と紙媒体への展開を行う。企画設定と編集作業を行い、決められたサイズと書式での創作を体験する。長さの違う短編作品の創作を体験し、文章のまとめ方を学ぶ。各自、得手不得手の長さを感覚的に掴む。	○	○	○			
		○	○		○	○	
イラスト・挿絵研究	イラストで自分の思いを伝える能力、人の望むイメージを読み取りイラストで表現する能力を身につける。		○				
		○	○		○		○
近現代の小説	分析的な読みを通して、作品がどのように創られているかを知り、作品世界をより深く理解し、味わう。	○		○			
		○		○			○
詩歌を創る	詩歌の表現技法の基礎を身につけ、オリジナルな作品を創る。	○	○				
		○	○	○	○		
Web出版	Webを用いて公開する作品の企画や制作を担当する。プレゼンテーションを重ね内容を充実させ、完成した作品をインターネット上で公開する。	○	○				
		○	○	○	○		○
イラストレーション演習 I	頭でイメージしたイラストを1枚の紙の上で表現する手段の基礎を身につける。		○				
		○	○		○		○
イラストレーション演習 II	物語に自分のオリジナルイラストを添え、1つの作品を創り上げる。		○				
		○	○		○		○
イラストレーション演習 III	オリジナルの物語、キャラクターを創る。		○				
		○	○		○		○
イラストレーション演習 IV	オリジナルの物語、キャラクターを創る。		○				
		○	○		○		○
書道の基礎(書免) I	楷書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
		○	○	○			○
書道の基礎(書免) II	隷書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
		○	○	○	○		
書道 I	行書の代表的な古典を臨書して、用筆や結構について理解を深め、技法の習熟をはかる。	○		○			
		○	○	○			○
書道 II	仮名の成立過程と仮名書法の間を関係を理解する。仮名書法の基本を習得する。「高野切古今集」の学習を通して、古筆の臨書方法を理解する。	○		○			
		○	○	○	○		○
書道 III	仮名古筆の文字造形や線質を基本として、仮名書美の多様性を知り、そこに現代的感覚を盛り込んでいく。	○	○	○			
		○	○	○	○		
書道 IV	大字仮名作品の歴史を踏まえ、現代仮名作家の文字造形や線質を参考にしながら大字仮名作品の制作を通して、その美について探求する。	○	○	○			
		○	○	○	○		
書画制作(基礎)	四君子(蘭、竹、梅、菊)の画法を学ぶことにより、水墨画の基礎を習得する。		○				
		○	○	○			
書画制作(応用)	水墨画の鑑賞眼を高めるとともに、自由な水墨画が描けるようになる。		○				
		○	○	○			
書道の歴史 I	中国書道史について理解する。	○		○			
		○	○	○			○
書道の歴史 II	日本書道史について理解する。	○		○			
		○	○	○			
書論研究 I	中林梧竹の「梧竹堂書話」を用い、書道の理論の理解を深める。	○		○			
			○	○			
書論研究 II	『書譜』『東坡題跋』『画禅室隨筆』などを用い、中国の書論への理解を深める。	○		○			
			○	○			○
篆刻制作	篆刻の歴史を理解し、印に対する意識を深め、篆刻作品を作る。		○				
		○	○	○			
漢字かな交じり書の研究	個性溢れる現代性豊かな近代詩文書(漢字かな交じり書)を制作する。	○	○				
		○	○	○	○		
資格	国語科教育法 I	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
	国語科教育法 II	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
国語科教育法 III	○	○	○				
	○	○	○	○	○	○	

関係	国語科教育法Ⅳ	中学国語の教材研究を行い、学習指導案を作成し、指導案に沿って国語を教授できる知識・技術・指導力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	書道科教育法Ⅰ	芸術科書道教育の概要について理解し、学習指導法の基本を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
	書道科教育法Ⅱ	教材研究を行い、学習指導案を作成し、指導案に沿って書道を教授できる知識・技術・指導力を身につける。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	○
卒業論文・卒業創作・卒業制作	学習の総まとめとしての卒業論文・卒業創作・卒業制作を完成させる。	○	○	○				
		○	○	○	○	○	○	

文化表現学部 情報メディア学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)									
① 情報メディアを駆使して、新たな文化を創造できる力									
② 情報をグローバルに把握し、情報発信の担い手として社会に貢献できる力									
③ 医療事務職としての資質を備え、情報メディアを活用して社会に貢献できる力									
④ ファッション情報を活用・発信できる知識と技術に精通し、社会に貢献できる力									
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例							
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力							
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力							
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力							
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力							
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力							
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力							
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号						
			上段：到達目標(DP)						
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
学部 共通 科目	ビジネススキル I	企業についての基礎的な概念(企業の種類や仕組み、その成り立ち等)を理解し、説明できる。習得した概念や考え方を実践(事例)において理解する。		○					○
	ビジネススキル II	財務会計分野の基礎的な項目を理解する。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定3級を目指すための基本の知識を身につける。		○					○
	キャリア英語入門 I	文法の正しい知識に基づき、英文の構造を踏まえ、ある程度の長さの英文を速く正確に読める。Readingのみならず、TOEICで高得点が取得できるよう、Listeningの力もつける。	○	○					○
	キャリア英語入門 II	耳ばかりに頼るのではなく、様々なことを頭で判断しながら英文を的確に聴き取る力をつける。この授業で学んだことを、実践的なコミュニケーションの場で活かすことができる。	○	○				○	○
	ビジネスマナー I	ビジネスにおける基本的なマナーを習得し、他者との協調を円滑にする。	○	○					○
	ビジネスマナー II	ビジネスにおける実践的なマナーを習得し、他者との相互理解を深めることができる。	○	○					○
	図書館情報学概論	図書館の社会的役割について説明できる。各種図書館の特性や利用者ニーズについて解説できる。専門職としての図書館司書の資質と技能を理解する。図書館の自由とは何かを理解し、課題について考察できる。	○	○					○
	図書館サービス概論	図書館サービスの基本的な理解を図る。図書館利用者のニーズを把握し、適切なサービスを提供できる。	○	○			○		○
	図書館制度・経営論	図書館に関わる制度と公共機関の経営の基本的な理解を図る。図書館の社会的重要性を理解する。		○				○	
	海外インターンシップ	国内外への団体旅行の添乗員資格である総合旅程管理主任者の資格取得を目指し、海外での実務を体験する。	○	○				○	○
基本 科目	オフィスアプリケーション I	他者との協調・協働を促進するためのプレゼンテーションの方法を習得する。画像の挿入や表・グラフによるデータの表示、アニメーションの利用等による効果的な表現ができる。	○	○				○	○
	オフィスアプリケーション II	データを他者と共有し、効率的なデータ管理ができるようにデータベースを作成できる。用途に合わせてデータベースを活用できる。	○	○				○	○
	Webサイト制作基礎	基本的なホームページを作成できる。画像やハイパーリンクの挿入ができる。他者が閲覧しやすいホームページの表示方法を知る。	○	○				○	○
	Webコンテンツ基礎	様々なツールを用いて画像を加工し、魅力あるコンテンツ作成の方法を身につける。CSSを用いて、効果的なコンテンツ表現ができるようになる。	○	○				○	○
	情報検索論	情報検索の仕組みを理解し、基本的な検索スキルにより必要な情報を取得できる。各種検索サイトの特性を知り、活用できるようになる。	○	○					○
	Visualプログラミング	様々なサンプルプログラムの制作を通して学んだ内容を応用し、自力で簡単なWindowsプログラムが作成できるようになる。	○	○					○
	情報アドミニストレーション	コンピュータを構成するハード・ソフトについて理解する。ネットワークの仕組みについて学び、情報共有を活用できる。情報社会を支えるセキュリティについて理解し、自身の情報セキュリティ設定をチェックできる。	○	○				○	○
	情報マネジメント	企業の情報マネジメントの基礎的な項目を理解する。他者とのプロジェクト作業におけるPDCAのサイクルを理解する。	○	○				○	○
	図書館情報技術論	図書館運営やサービスの提供に関わる情報技術全般について理解する。図書館サービスにおける情報メディアの活用について学ぶ。	○	○				○	○
	図書館情報資源概論	図書館に収集される情報資源の種類と特質について説明できる。図書館がどのように情報資源を収集し、保存し、コレクション形成していくのか、その維持・発展に関わる様子を説明することができる。出版業界を取り巻く環境の変化や業界が抱える問題点について、説明することができる。	○	○					○

Webアニメーション	JavaScriptによるアニメーションの作成方法を学び、閲覧者にとって使いやすいユーザーインターフェースが作成できる。	○	○						
情報サービス論	図書館における情報サービスの種類や特徴について説明することができる。テーマ別にレファレンス資料を分類することができる。	○	○					○	○
カラーコーディネイト論	実際に配色の効果を考えたプレゼンテーションのスライドを作成できる。カラーコーディネイトの理論を理解し、それを実践できる。	○	○			○			○
デジタルフォト演習	写真メディアの重要性を学び、デジタルカメラによる撮影やパソコンによるデータ画像処理・編集などができる。各種媒体のテーマに沿った作品の制作ができる。	○	○						○
情報メディア基礎演習	ノートPCの基本的仕組みを知り、基本的な保守点検とトラブル時の対処ができる。ネットワークに接続し、メールを活用できる。セキュリティ・著作権に配慮できる。プロジェクトを立ち上げ課題を遂行し、成果を発表する方法を知る。	○	○						○
情報メディア演習Ⅰ	情報メディアの各分野毎に、必要となる問題発見・解決のための基礎知識とスキルを習得し、他者との共同作業による実践的な課題の遂行および発表を行うことができる。	○	○			○		○	○
情報メディア演習Ⅱ	各専門分野の理解を深めるとともに、情報メディア演習Ⅰで習得した問題解決能力をさらに発展させ、高度な課題に取り組むことができる。	○	○			○		○	○
卒業演習・制作Ⅰ	各専門分野における具体的な研究テーマを設定し、必要となる知識・スキルを習得しながら、問題提起・解決法の提示・検討を繰り返すことができる。	○	○			○		○	○
卒業演習・制作Ⅱ	卒業論文・制作の研究テーマについて議論を進め、独自の結論を導き出し、全体の成果をまとめて発表することができる。	○	○			○		○	○
広告入門	広告に関する基礎知識を身につけ、広告の多様さを知るとともに、特定のテーマに関する広告を企画できるようになる。	○	○						
広告表現論	内外の多くの優れたテレビCMを鑑賞し、CMの豊かな表現に触れることによって、テレビCMを作成者の視点から見るようになる。	○	○						○
マスコミ概論	マスコミで必要とされる表現力、なかでも「聞く力」「書く力」を身につける。各自の考えを正確に伝えることができるようになる。	○	○						○
マスコミ研究Ⅰ	「ニュースはスマホで知る」という時代であるが、発信者側の新聞記者や放送記者が持っている「記者魂」とはどのようなものかを知ること、ニュースの見方・聞き方を広げる。	○	○					○	○
マスコミ研究Ⅱ	発信者の視点から雑誌作りを経験し、具体的な一連の作業手順を学ぶとともに、各自の潜在能力に気づき、それを伸ばす。	○	○					○	○
広告・コピーを創るⅠ	賞品やサービスのコンセプトは何かを見つけ、それをいかに短い言葉で表現し、相手に伝えられるかを学ぶ。具体的なコピーの作成を通じて、創造力とコミュニケーション力を身につける。	○	○					○	
広告・コピーを創るⅡ	映像、音声、時間という3要素を駆使して表現力を高め、コミュニケーション能力と、プレゼンテーション力を身につける。	○	○					○	
番組制作論	番組制作に必要な基本的知識と作業手順について学び、実習における自主的な創作活動につながるよう準備する。	○	○					○	
番組制作実習	人との共同作業の楽しさや難しさを学びながら、グループに分かれた学生それぞれが役割を分担し、コミュニケーション能力を磨きながら作品作りを経験する。	○	○					○	
広報・パブリシティ論	社会人として必要な「作文」の基礎力を身に付けるとともに、「企業広報」について理解し、その基礎的技術を習得する。	○	○						○
ジャーナリズム論	文章と映像と音楽を融合させた表現であるカットノベルの作成を通して、ジャーナリズムとは何かを理解する。	○	○					○	○
広告ビジネス論	広告を取り巻く「仕事」について理解し、自らの指向や適性と照らし合わせて、今後の就職活動の方向性を検討する。	○	○						○
アナウンス概論	人間同士の話し方やアナウンサーに求められる基礎知識を理解する。言語コミュニケーションにおける正確で分かりやすい表現方法を学ぶ。	○	○					○	○
ことばと放送	正確な情報伝達が重要視される放送では、特有の表現が多く用いられる。それらを反復練習し、アナウンスできるようになる。	○	○					○	○
アナウンサー基礎Ⅰ	情報伝達のための正確なアナウンスメントとは何かを知り、各自が練習により実践できるようになる。	○	○					○	○
アナウンサー基礎Ⅱ	正確なアナウンスメントを第1目標として練習を繰り返し、完成度の向上を目指す。	○	○					○	○
発音・発声実習Ⅰ	言語コミュニケーションにおける正確な発音・発声のための具体的な練習を繰り返し、プロを目指すよう一歩一歩前進する。	○	○					○	○
発音・発声実習Ⅱ	プロのしゃべり手になるために必要となる要素を学び、各自の苦手な部分を反復練習によって克服する。	○	○					○	○
アナウンサー演習Ⅰ	アナウンサーという職業を目指し、要求される条件を認識しながら、女性として美しい日本語アナウンスができるよう練習する。	○	○					○	○
アナウンサー演習Ⅱ	正確さは基本的条件として、さらに高度な、より女性らしいおしゃべりな話し方ができるよう努力する。	○	○					○	○

発展科目

放送の法規と倫理	メディアの受け手として、情報をうのみにせず、背景を読み取り、自ら客観的かつ論理的に分析・判断できる能力を身に付ける。発信者として、情報がどのように受け取られるかを想像できる能力を養う。他人の意見に流されず、自立した見解を持てるようになる。	○	○				
デザイン基礎論	デザインの構成要素について説明できる。コンテンツの企画・制作ができる。デザインのアウトプットができる。	○	○				
Webデザイン	自ら情報発信できるコンテンツをもつ。企画のプレゼンテーションができる。一般公開可能なWebページの制作ができる。	○	○				
グラフィックデザイン	身近な情報のリサーチと誌面の企画ができる。ロゴやイラストのデザインができる。DTPIによる誌面デザインができる。	○	○				
グラフィックアート	発想から作品制作、完成にいたるまでの流れを経験し、他者の作品を鑑賞する力を身につける。	○	○				
3Dグラフィックス	新たな情報の表現手法である3Dグラフィックスについて学び、基本的な3Dモデリングとアニメーションの設定ができる。	○	○				
映像制作論	様々な作品に隠されたテクニックを分析し理解することで、自分の作品へとつなげていく能力を身につける。	○	○				
サウンドデザイン論	メディアを活用してサウンドをデザインするための知識と技術を学び、各自の想いを音で表現できるようにする。	○	○				
プログラミング	情報メディアを活用するためのプログラミング技術について、その初歩からはじめ、最終的にはウィンドウプログラミングの仕組みと手順まで理解する。	○	○				
プログラミング実習	プログラミングに必要な考え方(アルゴリズム、データ構造)を理解し、設定した目標を達成するための指針を立てて実行できるようにする。	○	○				
システム基礎論	情報処理システムを設計するための基本的流れと技法について理解する。特にオブジェクト指向プログラミングに焦点を当て、共同作業の際に必要なとなるUMLの作成技法を習得する。	○	○				
3Dアニメーション	新たな表現手法である3Dアニメーションを制作するための基本的知識と技術を習得する。キャラクターを使った3Dアニメーションを制作できる。	○	○				
ゲーム制作論	ゲーム制作現場での作業工程を理解し、オリジナルのゲーム企画案を作成する。新たなメディアの担い手となるための技術を習得する。	○	○				
ゲームプログラミング	具体的な3Dゲームのサンプルを学びながら、プログラミング技術を習得する。実用的なゲームを作成できるようにする。	○	○				
Webスク립ティング	ホームページにプログラミング技術を導入し、閲覧者に注目されるような3Dの表現方法を学ぶ。3Dオブジェクトを組み込み、閲覧者の操作に応答したり、VR体験ができるようなホームページを作成できる。	○	○				
ファッション情報概論	情報メディアを駆使して、必要なファッション情報を的確に収集し、その情報を活用する技術を習得する。	○	○				
ファッション販売論	ファッション販売に関する基本的な知識・技術を習得する。顧客のニーズを理解し、新たな販売企画の提案ができる。	○	○				
ファッション史	各時代を代表する特徴的なファッションに関する知識を習得し、社会的背景や芸術様式との関連について知見を深める。	○	○				
ファッションビジネス論	ファッション業界の機構とその果たす機能、社会・経済的な変化、それに伴う消費者の意識や購買意欲の変化など把握する。	○	○				
ファッションカルチャー論	19・20世紀におけるファッション現象についての重要事項を把握する。現在のファッション現象を収集・分析する力を養う。	○	○				
ファッションデザイン実習	テーマを調査・分析し、アイデアをかたちにすることができる。自分のイメージを他者に的確に伝達する方法を習得する。	○	○				
ファッション雑誌研究	西洋における女性雑誌の変遷を知り、そのなかでファッションがどのような役割を果たしたのかを理解する。実際にファッション記事を作成し、表現手段としてのファッション雑誌を理解する。	○	○				
ファッション企画	調査・分析から、自分の見解を導き出し、他者に伝える能力を習得する。グループディスカッションにおいて、協働して目標を達成することを目指す。	○	○				
ファッション雑貨演習	ファッション性のある実用的な雑貨についての知識を学び、身に着けられる個性的な作品を制作する。	○	○				
インテリア雑貨演習	生活全般のデザインや豊かなライフスタイルとは何かを知ることでファッションに関する視野を広げ、身の周りの商品の形や機能の役割を理解してオリジナルな作品を提案する。	○	○				
アパレル制作実習Ⅰ	被服に関する総合的な知識と技術を習得する。アパレル生産の製品化の流れと仕様を学び、ブラウスおよびスカートを作成する。	○	○				
アパレル制作実習Ⅱ	体型に合わせた作図方法を理解し、自分のデザインを作図し、パターンにすることができる。トレンドの要素を取り入れ、デザインしたスカート・パンツの製作を通して、作図方法、各種素材の扱い方、縫製技術、を習得する。	○	○				

心理こども学部 こども学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
①保育者としての知識、技術、倫理を修得し、幼児教育・保育の現場で実施する力								
②こどもと保護者、さらにはこどもを取り巻く地域社会におけるさまざまな問題を発見し、解決する力								
③こどもや保護者との適切な関わりと信頼関係の構築、関係機関との協働関係を築くためのコミュニケーション能力								
④保育者としての総合的な表現力								
⑤児童文学と絵本についての理解と、伝達、創作、研究の基礎的な力								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
須学科科目必	こども学入門	こどもに関する思想・こどもの文化についての基礎的な知識を身につける。	○	○	○	○	○	
			○	○	○	○	○	○
児童文学・絵本分野	絵本読み語りの理論と演習1	絵本の世界を子どもたちに伝えるための知識と能力を養う。	○		○	○	○	
	絵本読み語りの理論と演習2	絵本の世界を子どもたちに伝えるための知識と能力を養う。	○		○	○	○	
	児童文学制作基礎	原稿用紙5～10枚程度の物語を創作する。					○	
	児童文学作品制作A	アイデアから構想、実作を経て、世界にひとつだけの物語を作る。前期は主にお話しのタネ探しを中心に柔軟な発想力を獲得する。	○	○	○	○	○	
	児童文学作品制作B	アイデアから構想、実作を経て、世界にひとつだけの物語を作る。後期は絵本テキストと短編童話を書き上げ合評する。	○	○	○	○	○	
	絵本制作基礎	絵本の鑑賞と制作実技を通して、絵本の持つ意義、楽しさ、面白さを発見する。	○		○	○	○	
	絵本作品制作A	絵本の持つ意義、楽しさ、面白さを発見すると共に、絵本における多様な表現法・技法を理解し自らの絵本制作に応用することを目指す。	○		○	○	○	
	絵本作品制作B	絵本作品の制作を通して具体的な絵本の成り立ちを学習する。自分で発想したアイデアに絵を付けるという体験を通して絵本への興味と理解を深める。	○		○	○	○	
	日本児童文学講義	授業で取り上げた作家の代表的作品を読む。					○	
	外国児童文学講義	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の文化や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶ。	○			○	○	
	絵本学講義	①国内外の代表的な絵本を深く捉えることで、絵本というメディアの特性を理解する。②1冊の絵本を分析し、その特徴を自分の言葉で表現できるようにする。③絵本を通して表現方法、あそびへの発展について考える。	○	○			○	
	教職論	教職論	保育者に求められる知識、技能・姿勢を学ぶ。	○	○	○	○	
教育原理		近代における子どもの発見の歴史と、それを出発点とする2方向の子ども観を理解することによって、近代教育の在り方を問い直すとともに、近代教育を超える新しい教育の可能性を考えていく視点を養う。	○	○	○			
発達心理学		様々な能力がどのように発達するのかを理解し、その発達に影響する要因について、自分の意見をもち、論じることができるようになる。	○		○			
幼児理解・教育相談		子ども理解の視点と、子どもを取り巻く諸課題を理解する。またカウンセリングの基礎知識を身につけ、実践できるようにする。	○	○	○	○		
教育課程論		①保育内容の充実と質の向上に資する教育課程の原理、及び教育課程の変遷についての理解ができる。②教育課程の編成の過程について、全体構造を動的に捉えた理解ができるようになる。③保育者として基本的視座を理解し、具体的に作成できるようにする。	○	○	○	○		○
保育内容(健康)		子どもの健康に関する知識を得ると同時に、具体的な実技や保育現場の実践資料などによって、より深く理解する。また現在の保育現場にある課題を見つけ出し、解決する方法を考える力を身につける。	○	○	○	○		
保育内容(人間関係)		領域「人間関係」のねらいと内容と社会的行動の育ちの道筋を理解する。その上で、社会性発達をねらいに据えた保育活動を立案できる。	○	○	○			
			○	○	○	○	○	

保育内容(環境)	幼児の発達における環境の意義と役割を理解することによって、幼児が様々な環境と豊かな関わりをもてるように援助していく力を養う。	○		○	○		
保育内容(言葉)	①乳幼児期の言葉の発達が理解できるようになる。②言葉を育む基礎的知識、技術を習得する。③模擬保育や指導案作成を通して具体的保育技術を習得する。	○	○	○	○	○	
保育内容(表現)	学生自ら表現することから、保育現場で心弾ませて乳幼児の目の高さで、表現豊かに読み、歌い、弾き、心を通わせる保育者としての表現力に出会う。	○	○	○	○		
保育内容総論A	保育計画立案の意義、保育方法や援助、保育技能等、保育者としての基本的能力を習得し、子どもを主体とした実践の理解を深めていく。	○	○	○	○	○	
保育内容総論B	①保育計画の立案の意義を明確にし、現場に必要な指導計画・指導案作成について理解する。②保育活動(実習)を、可能にするための、保育方法や援助、保育技能等基本的能力を身につける。③保育内容を多面的に捉え、子どもを主体とした実践への理解を深める。	○	○	○	○	○	
幼児体育1	保育の現場で使用する体育用具および遊具について、子どもの発達に応じた使い方や援助ができるようになることを目的とする。	○		○	○		
物語伝達の理論と演習	①教材作成の過程で、創造性を発揮して環境構成の工夫ができるようにする。②作品が乳幼児の情緒の発達に適切であるかを考察し、作品を通して子ども理解を深めるようにする。③教材作成を経験することで保育者として、児童文化のあり方を理解できるようにする。	○	○	○	○	○	
造形1	制作実技を通して、表現の楽しさを実感しつつ、指導者に不可欠な豊かな感性と想像力・表現力を養う。	○		○	○		
音楽の演習1A	ピアノの基礎技術と読譜力を修得する。また保育者としての豊かな表現力を培う。	○			○		
音楽の演習1B	ピアノ奏法の応用と読譜力を修得する。さらに保育者としての豊かな感性と表現力の向上をめざす。	○			○		
音楽の演習2A	保育現場に必要な保育技術と表現力の向上を目標とする。	○			○		
音楽の演習2B	保育現場に必要な保育技術と表現力の向上を目標とする。	○			○		
音楽の演習3A	保育者としての音楽に対する感性を高め幼児の感性をも豊かに育てるための表現力を身につけ、現場に即応できる実践力の向上をめざす。	○			○		
音楽の演習3B	保育者としての音楽に対する感性を高め幼児の感性をも豊かに育てるための表現力を身につけ、現場に即応できる実践力の向上をめざす。	○			○		
教職実践演習(幼稚園)	幼稚園教諭として最小限必要な下記5つの資質能力を身につける。①教師としての使命感や責任感、教育的愛情②社会性や対人関係能力③幼児理解能力や学級経営力④保育内容の指導力⑤表現力	○	○	○	○		○
幼稚園現場体験	幼稚園の現場を観察し、実体験をすることによって、子ども理解を深め、幼児教育・保育に関する問題意識を高める。	○	○	○	○		
子どもの保健 I A	子どもの保健全般についての基礎知識を習得することにより、保育士として必要な子どもの健康・保健等に関する視点を養う。	○	○				
子どもの保健 I B	子どもの保健全般についての基礎知識を習得することにより、保育士として必要な子どもの健康・保健等に関する視点を養う。	○	○	○			
保育原理	保育における保育者のかかわりの重要性を理解し保育に関する基礎的、歴史的知識を習得する。	○	○	○	○		
社会福祉	社会福祉のしくみ、方法、考え方について理解し、保育現場で役立てることができる。	○	○	○			○
児童家庭福祉	保育実践に不可欠な児童家庭福祉に関する基礎的知識を修得する。		○	○			
社会的養護	児童福祉施設を体系的に理解する。		○	○			
保育指導法	子どもの発達と興味関心に応じた保育実践について習得を目指す。	○		○	○		
子育て支援論	多様な子育て支援施策を学ぶことにより、将来、保育所や幼稚園等で子どもやその家族をサポートするうえで必要な知識と視点を養う。	○	○				○
家庭支援論	将来、保育所や幼稚園等で、子育て家庭を支援していく際に必要となる家庭支援の視点と知識を習得する。	○	○	○			○
子どもの保健 II	子どもの保健全般についての基礎知識を習得することにより、保育士として必要な子どもの健康・保健等に関する視点を養う。	○	○	○			
相談援助	保育の場面で必要な相談援助ができるよう、理論と技術について学び修得する。	○	○	○	○		○
障害児保育	障がい特性の理解とかかわり方の基本姿勢を身につける。また、地域の関係機関の役割や連携方法、保護者支援について理解する。	○	○	○	○		

乳児保育A	乳児保育の意義や歴史を理解する。乳児の発達について理解する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
乳児保育B	乳児の生活と遊びを理解する。乳児保育の実際と課題を理解する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
子どもの食と栄養A	保育・幼児教育に携わる者として、栄養・食生活に関する正しい知識を習得し、子どもの食生活を豊かにする能力を身に付ける。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
子どもの食と栄養B	保育・幼児教育に携わる者として、栄養・食生活に関する正しい知識を習得し、子どもの食生活を豊かにする能力を身に付ける。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
教育心理学	科学的な観点から保育について考える。行動や学習に関する心理学の理論を踏まえた保育方法を考案することができる。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育相談支援	実際の保育現場で適切な保育相談支援を行えるための、方法と技術を修得する	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
社会的養護内容	保育士・児童指導員に求められる養育・支援の基本的技術を体得する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育実習指導 I (保育所)	実習の目的、内容、方法等を具体的に理解する。実習開始までの事前準備、実習生としてのマナー、実習記録の方法、指導計画の作成方法等を身につける。また実習を評価・反省し、実習後の実習課題を明確にする。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育実習 I (保育所)	実習を通して、保育の実際を体験的に学ぶ。講義を通して得た専門的内容を生かして実習に取り組み、担当保育者の指導を受けながら保育に必要な知識、技術、態度の習得に努める。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育実習指導 II (保育所)	実習の目的、内容、方法等を具体的に理解する。実習開始までの事前準備、実習生としてのマナー、実習記録の方法、指導計画の作成方法等を身につける。また実習を評価・反省し、実習後の実習課題を明確にする。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育実習 II (保育所)	特色ある保育の方法を習得する。担当保育者の指導を受けながら、こどもたちの興味関心をくみ取った指導計画を立案し、実践する。保育者を目指す者として、今後の学習課題を明確にする。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育実習指導 I (施設)	①居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。②実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。③実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育実習 I (施設)	①居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。②実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。③実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育実習指導 III (通所施設)	①居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。②実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。③実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
保育実習 III (通所施設)	①居住型児童福祉施設における実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。②実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。③実習の計画・実践、観察、記録、評価について具体的に理解する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
教育社会学	教育現象を客観的に把握・分析することができるようになること。自分自身で考える力を身につけること。論理的に物事を考え、表現する力を養うこと。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
教育方法論	①今までに学んできた考え方や技術を基盤にして、自らの意見を述べたり、書いたりできるようにする。②今までに学んできた考え方や経験をもとに、こども理解を深め記録できるようにする。③今まで経験したことを基盤に部分保育を企画、実践、自らを評価する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
幼児体育2	幼児期における運動発達、遊びの意義について理解するとともに幼児の発達に即した指導計画がたてられ、指導できるようにすること。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
自然とあそびのワークショップ	「遊んで学ぶ」であることに触れることを大きな目標とします。親子行事や園の活動を経験する中で、遊びの楽しさを味わう。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
造形2	身の回りにあるような素材・材料を活用して、造形表現における技能を習得する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
こどもの表現活動	こどものコミュニケーションとしての身体活動等を理解する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
教育実習(幼稚園)	教育課程(幼稚園)においてこれまでに修得した知識や技術を、総合的に実践する応用力を養う。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	子どもの健全育成の考え方と課題を理解する。また、実践の場である児童館・放課後児童クラブの機能を理解する。	<input type="radio"/>					
		<input type="radio"/>					

児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	児童館、放課後児童クラブの活動内容を理解する。年間を通しての活動内容の理解と行事や活動内容の立案と実施ができる。	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	
在宅保育	家庭訪問保育の理論と実際、家庭訪問保育者としての基本姿勢、また保育の実践を行う場合に必要な具体的事柄を学ぶ。	○	○	○	○		
		○	○	○	○		
リトミックⅠ	子どもたちと身体全体で音楽を楽しみながら、子どもたちの心と身体のバランスを育み、感覚を磨き、知性の基礎をつくる専門家としての知識を習得する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○		
リトミックⅡ	子どもたちと身体全体で音楽を楽しみながら、子どもたちの心と身体のバランスを育み、感覚を磨き、知性の基礎をつくる専門家としての知識を習得する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○		
レクリエーション概論	日本レクリエーション協会が示しているレクリエーションインストラクター養成カリキュラム(基礎理論、支援論、事業論)の内容を理解する。	○	○	○			
		○	○	○	○	○	○
レクリエーション支援法	できるだけ多くのレクリエーション財を体験することで、楽しさの本質や指導者としてのコミュニケーション技術を学ぶ。	○	○	○			
		○	○		○	○	
レクリエーション実技	レクリエーション活動の効果は、実技の内容に加えて心理的なもの、すなわち指導法の演出能力が大きく問われる。その内容とは活動を展開する場所・日時・集団などによって多種多様で、それらに対応できるようにする。	○		○	○		
		○	○		○	○	
レクリエーション現場実習	大阪府および市区町村のレクリエーション協会の活動内容、また、行事、イベント等で指導者の働きを理解する。	○	○	○	○		
		○	○		○	○	
おもちゃ学演習	こども達の行動分析を行いながら幼児の知能や情緒形成、認知的発達の仕事の仕組みを理解し、今後の子どもに関わるキャリアにつなげる。	○		○	○		
		○	○	○	○	○	○
こども学海外研修	海外の文化等に触れ幼稚園教諭、保育士としての資質の向上を図る。	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○
学科必修科目	卒業論文・卒業制作演習ⅠA	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅠB	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅡA	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅡB	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○
卒業論文・卒業制作	卒業論文・卒業制作演習で学んだことを卒業論文、卒業制作としてまとめる。	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○

心理こども学部 心理学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
①様々な場面における対人援助技能を発揮する力								
②こどもの発達に関する正しい知識力								
③視覚や聴覚等の感性を豊かにすることで、生活の質を高める力								
④自分の心理状態はもとより、他者の心理状態の安定に寄与できる力								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段:到達目標(DP)					
			下段:梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
学科必修科目	心理学概論A	知覚・認知心理学と社会心理学の基礎知識を身に付ける。			○	○		
	心理学概論B	発達心理学と臨床心理学の基礎的知識を身に付ける。		○	○	○		
	心理学研究法	卒業論文研究を実施するに当たって、自身の研究テーマに沿った適切な研究方法を立案できるようになる。		○	○	○		
	心理統計学Ⅰ	各自の卒論研究に際して、適切な統計学的検定を行えるようになる。		○	○	○		
	心理学実験A	人間のものの見方や考え方、行動、人間関係のしくみなどについて調べるための実験・調査方法、得られたデータの統計的分析、分析結果を客観的に考察してレポートにまとめ方法などについて学ぶ。	○	○	○	○		
	心理学実験B	人間のものの見方や考え方、行動、人間関係のしくみなどについて調べるための実験・調査方法、得られたデータの統計的分析、分析結果を客観的に考察してレポートにまとめ方法などについて学ぶ。	○	○	○	○		
	心理学演習ⅠA	卒業論文のテーマに関する文献を読み、研究計画を立てる。また、調べてきたものを発表し、討論する。	○	○	○	○	○	○
	心理学演習ⅠB	卒業論文のテーマに関する文献を読み、研究計画を立てる。また、調べてきたものを発表し、討論する。	○	○	○	○	○	○
	心理学演習ⅡA	卒業論文のための調査、実験を行う。また、卒業論文を作成する。	○	○	○	○	○	○
	心理学演習ⅡB	卒業論文のための調査、実験を行う。また、卒業論文を作成する。	○	○	○	○	○	○
学科選択科目	社会学	現代社会を理解するうえで知っておくと大変有用な社会的なものの考え方の基礎を身に付けることを目指す。	○	○	○	○		○
	生活と経済	経済のしくみと課題、経済学の基礎知識を、日常生活と結びつけて理解する。また、授業で学んだことを日常生活の中で活用し、生活者として主体的に経済活動を実践する。	○	○	○	○		○
	倫理学	倫理と公民の基礎的知識を身につけるのみならず、社会生活において実践出来ることを目標とする。	○	○	○	○		○
	心理統計学Ⅱ	各自の卒論研究に際して、適切な統計学的検定を行えるようになる。		○	○	○		
	文献講読	大学院進学に必要となる、英語の基礎的な読解力を養う。	○	○	○	○	○	○
	公民科教育法Ⅰ	中学校社会科や高校地歴科との関連性を踏まえた上で、高校公民科(現代社会、倫理、政治経済)で取り扱う教授内容を適切に理解し、生徒にわかりやすく教材化するための基礎的能力を身につけることを目標とする。	○	○	○	○	○	○
	公民科教育法Ⅱ	高等学校公民科の学習指導案・教材づくり、模擬授業とグループでの検討会を通して、授業実践力を高める。	○	○	○	○	○	○
	動物形態機能学	犬を中心に、動物の解剖と生理学を学ぶことで、動物看護の基礎を身につける。	○	○	○	○		○
	動物看護公衆衛生学	人獣共通感染症を中心に学び、人と動物が共生する社会において動物看護師として必要な知識を身につける。	○	○	○	○		○
	小動物臨床看護学	動物病院現場での動物看護の理論と実践を学ぶ。また動物の疾病についての知識を身につける。	○	○	○	○		○
こども学	現代日本におけるこどもたちの全体像を理解するとともに自分自身の恋愛・結婚・子育て観を再点検しキャリア形成に活かす態度を形成する。	○	○	○	○	○	○	

発達心理分野	発達心理学1	子どもの心身の発達の様相と学習の過程を理解する力を養う。また、発達の過程で生じる心身の不適応についても理解する。さらに、様々な障がいを抱えた子どもの心身の発達や学習の過程を理解し、指導・援助のための基本的知識を身につける。		○						
	発達心理学2	発達に関する知識を身近な事象と結び付け、人間理解を深める。		○						
	パーソナリティ心理学	パーソナリティ心理学の基礎知識を身につけ、人の性格に対する興味を深めるとともに、より深い他者理解や自己理解を促進する。		○						
	動物行動学	ヒト以外の霊長類とヒトの行動との相違点や類似点を常に考える。ヒトを理解するのに、サルを通して行うこともできるということを通して、論理的思考能力、表現力の向上を目指す。		○						
	発達支援	定型発達の道筋について理解した上で、生物学的要因、環境要因による発達上の障害について正しく理解する。障害についての誤解や偏見をなくすために、「名前は聞いたことがある」というレベルではなく、「正しく理解する」ことを目標とする。		○						
	成人・高齢者の心理	生涯発達の視点から、成人期以後のころについて学び、高齢社会に伴って増加してくるさまざまな問題に関する理解を深める。さらに、他人事ではなく自分自身の生涯にまで視座を広げ、今後のキャリア形成を深めることを目標とする。		○						
	家族発達心理学	幸せな家族になるための発達過程について臨床社会心理学的アプローチにより理解して生活に役立てる。受講者自身の日常生活への適用と将来の問題の予防と効果的解決方法の習得を目指す。		○						
社会心理分野	スポーツ心理学	自分自身のスポーツ競技活動に心理学の知識を役立てる。また、心理学的な側面からスポーツに対する理解を深める。	○							
	援助行動の心理学	安心して援助の授受を交換できる親密な関係性を作るうえで、重要な役割を果たす日常のしぐさと魅力について理解することにより、有益な対人行動に寄与する知識の獲得を目標とする。	○							
	社会調査入門	社会調査の結果を読むための知識を習得し、実際に調査を実施する際のポイントをつかむ。	○							
	社会調査法	量的調査研究の一連の流れを理解するとともに、調査結果などの内容についても理解できるようになる。	○							
	コミュニティ心理学	学校というコミュニティで生起する課題をクリアすることで、受講者が社会において何をどのようにすれば社会貢献になるのかを知り、社会貢献できる人材の育成を図ることを目標とする。	○							
	コミュニケーション心理学	心理学の観点から、さまざまなコミュニケーションについての理解を深める。また、日常のコミュニケーションの中で、学んだ知識を活用する。	○	○						
	消費者行動の心理	消費者行動の心理の諸分野について総論的な知識を得る。	○							
	ビジネス学	企業活動における心理学の基礎知識を理解する。自分自身のアルバイト経験などから、講義内容を具体的に理解する。	○							
	社会調査実習A	社会調査の基礎を習得するために、学生自身がチームを組んで、作業を進行する。チームを組織し、協力して目標達成に向けて運営していくための、コミュニケーション能力、リーダーシップやマネジメント能力を獲得する。	○							
	社会調査実習B	社会的課題の発見と調査方法の手順を習得する。	○							
感性心理分野	学習と認知	知覚心理学・学習心理学・認知心理学における重要事項について理解する。		○						
	笑いの心理学	笑いのメカニズムを理解する。日常生活の中で、笑いを積極的に活用する。笑いを通じて心理学を学ぶ。	○							
	動物の知性	ヒトとヒト以外の動物の間にどういった類似点や相違点があるのか、また、それらが進化の流れの中でどのように生じて来たのかについて考察する。		○						
	音楽心理学	なぜ私たちは音楽を聞くのか、をテーマとして授業を進めていく中で、最終的に音楽に関する心理学的知見を身につけることを目標とする。	○							
	脳と心	脳の精密さ、生命の神秘に触れ、普通に生活を送ることのできる喜びを感じつつ、脳の基本的構造や働きについて理解を深める。	○							
	味と香りの心理学	味覚や嗅覚の脳内処理機構の概要を説明できる。味や香りが日常の生活場面でどのような働きや作用を持っているのかを理解する。食行動の制御における味や香りの役割について概略を説明できるようになる。	○							
	色彩心理学	色が私たちの生活において果たす物理的・生物的・心理的な役割について、基礎的な知識を身につける。		○						
音楽療法概論	音楽の効用や音楽療法の手法を知り、臨床場面で対応できる基礎知識を身につける。	○								

臨床心理分野

犯罪・非行の心理	犯罪の諸実態を知り、同時に犯罪被害者についても考察を深める。					○		
カウンセリング	相手の話をきちんと「聴く」ためには、どのようにしたらよいのか、また、自分の気持ちを相手にどのように伝えたらよいのかについて体験的に学ぶことを目的とする。	○	○	○	○	○	○	○
サイコドラマ入門	自分を表現したり、他者の視点や立場を追体験することで、自己理解や他者理解を深め、コミュニケーション力や共感力を育む。	○	○		○	○		
健康心理学	私たちの健康をとりまくシステムや諸理論を理解し、自らの健康について深く考える。また、実際に自らの健康関連行動の変容維持に到達する。	○	○	○	○	○	○	○
アニマルセラピー(ホース)	馬の特性について学ぶ。発達障害のある子どもたちの理解と支援の方法を学ぶ。教育の中で馬の特性を活かす方法を学ぶ。	○	○		○	○		
アニマルセラピー(ドッグ)	実践に通じるアニマルセラピーの基礎を学ぶ。	○		○				○
アニマルセラピー(ドッグ)実践演習	人と動物の関係の多様性について学ぶ。	○	○	○				○
昔話のこころ	昔話に込められたさまざまなメッセージを理解するとともに、昔話の持つ「語りの力」「伝承の力」「声の力」に気づき、保育・教育・福祉・心理臨床をはじめとする対人援助の現場において活用できるようにする。	○			○		○	○
心理テスト入門	心理検査の基礎を学び、心理学的な視点から客観的に自己分析する方法を身につける。	○	○	○	○	○	○	○
祈りと心	宗教を、社会や国家、文化におよぶ人間の価値判断の根源として尊重すべき事柄として理解し受容する姿勢を養う。そして、人間相互の絆を回復させる手立てとしても機能する点を理解する。	○			○		○	○
スクールカウンセリング	スクールカウンセリングの理論と実践についての基礎知識、および、カウンセリングの基本的な理論と技法について習得する。また、現代の学校現場における児童生徒の諸問題に対応する基礎的な理解力と実践力を養う。	○	○	○	○	○	○	○
認知・行動療法	認知行動療法の理論を学び日常生活に活かせるようになる。	○	○	○	○	○	○	○
プレイセラピー	遊戯療法を実際に実践できるようになる。	○	○	○	○	○	○	○
絵とイメージの心理療法	イメージを扱う心理療法の基礎についての理解を深める。	○	○	○	○	○	○	○
精神医学	精神疾患・精神障がいについての基礎と支援について理解する。	○	○	○	○	○	○	○
特別支援教育概論	特別支援教育の概要を理解する。また、特別支援教育に関する理念、制度、対象障害種、特別支援教育の現状と課題について理解する。	○			○			○
知的障害者の心理・生理・病理	知的障害における心理機能の諸特性の理解と発達支援の視点を理解する。知能・言語・社会生活に関する代表的なアセスメントについての知識を習得する。	○		○	○			
肢体不自由者の心理・生理・病理	肢体不自由児・者の発達とその障害について、運動、感覚・知覚、言語、社会性、思考の諸側面から理解する。	○		○	○		○	○
病弱者の心理・生理・病理	病弱児・者への臨床像とその心理・生理・病理的基盤を理解する。病弱児・者の教育的ニーズの心理学的基盤とアプローチを理解する。	○		○	○		○	
知的障害者指導法	知的障害に関する理解を基本とし、特別支援学校教育課程の理解、個別の指導計画作成を目標とする。	○	○		○		○	
肢体不自由者指導法	肢体不自由に関する理解を基本とし、特別支援学校教育課程の理解、個別の指導計画作成を目標とする。	○	○		○		○	○
病弱者指導法	病弱児・者の疾病について理解するとともに、その心理特性を把握し、その教育的支援について理解する。	○	○		○		○	
特別支援教育指導法演習A	実践の中から、自らが見出した課題について議論し、実践力を身につける。	○	○	○	○	○	○	○
特別支援教育指導法演習B	実践の中から、自らが見出した課題について議論し、実践力を身につける。	○	○	○	○	○	○	○
特別支援教育コーディネーター論	特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。特別支援教育の現状と課題、他機関連携とコラボレーションについて理解する。	○	○	○	○	○	○	○
視覚障害者の心理・生理・病理	視覚に関する解剖生理、眼疾患の概要を理解する。視覚障害者の心理特性を理解し、支援の在り方を考える。	○		○				
聴覚障害者の心理・生理・病理	聴覚及び音声に関する解剖と生理についての理解を深め、聴覚障害や音声機能障害に関する病態について知る。聴覚に障害のある子どもの心理を多面的に理解し、コミュニケーション手段の実際について知る。	○	○	○	○			○

特別支援教員養成科目

重複障害・LD等の心理・生理・病理	自閉症、ADHD等の心理・生理・病理の基本的特徴を理解し、神経学的評価や心理学的アセスメント、治療教育の基礎となる理論とその実践について概要を理解する。	○			○		
		○	○	○	○	○	○
視覚障害者の理解と指導法	視覚障害教育における教育課程、自立活動を理解する。実践的指導力の基礎をつくる。	○			○		
		○	○	○	○	○	○
聴覚障害者の理解と指導法	聴覚に障害のある子どもの心理を多面的に理解し、発達段階ごとの教育支援課題、現状と課題等について、具体的な教育方法と発展的な知識について理解する。	○			○		
		○	○	○	○	○	○
発達障害教育方法論	発達障害に関するアセスメント方法について理解する。特性に配慮した教育方法について理解する。	○			○		
		○	○	○	○	○	○
特別支援教育実習	教育実習への高い意欲と自覚をもつ。特別支援学校における教科の実践的な指導力を身に付けるとともに、障害のある生徒や学校の実態について深く理解する。教職への適性や課題について自己診断する。	○			○		
		○	○	○	○	○	○
卒業論文	心理学に関連する研究を行い、学術的な形式の論文としてまとめ、口頭で発表する。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○

食文化学部 食文化学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)									
①確かな調理技術と理論を身につけ、「食育・安全」「食産業」「食文化史」の三系統にわたる体系的な知識を持ち、食文化を総合的に理解できる力。									
②食と健康に関する豊富な知識と問題意識を有し、文化・自然科学的知識に基づいて、素材の特徴を最大限に生かせる調理・加工ができる力。									
③「食」の提供現場で必要とされる経営管理能力と高い接客(ホスピタリティ)能力。									
④日本の食文化に関する専門的知識を基盤に世界の食文化を理解し、日本の食文化の発展に寄与することができる力。									
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例							
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力							
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力							
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力							
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力							
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力							
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力							
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号						
			上段：到達目標(DP)						
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
学科 基本 科目	食と生命	①化学の基礎知識について理解し身につける。②人体の構造とその働きについて理解する。③食品に含まれる栄養素の種類とその代謝について理解する。		○					
	食品衛生学 I	微生物、食中毒を理解し、食中毒を予防できるようになる。		○					○
	栄養学 I	栄養素の種類と働きを理解する。栄養素の消化・吸収・代謝について理解する。		○		○			
	調理理論 I	主観的なおいしさについて影響を及ぼす要因について知り、おいしさについての理解を深める。	○						
	食品学 I	①食べ物と食生活を食物連鎖を含め系統的に整理し、理解する。②現在の食品の分類・整理の仕方を学ぶ。③日本食品標準成分表の利用上の注意点を知り、活用することができる力を養う。			○				
					○				
	公衆衛生学 I	公衆衛生の領域とその目的、実現のための行政の仕組み、調理師としての健康増進等に関する基礎的な知識を習得し、説明できる力をつける。	○	○	○				
	調理実習 I	調理の基礎を身につけ、調理器具を正しく使い、料理についての基本的な技術と知識を身につけるとともに、衛生的に食材を扱うことを知る。	○					○	
	食品衛生学 II	食品を扱う上で、食中毒を予防できるようになる。また、食品添加物の基礎知識を身につけ、その有用性と危険性について考える力をつける。		○					○
	食品衛生学 III	器具、容器包装の取り扱いや安全性について習得する。また、調理従事者や食品を扱う現場がどのような衛生対策、消毒・殺菌を行うのか、遺伝子組換え食品の種類と安全性、衛生法規についても理解する。		○					○
	食品衛生学実習	食品衛生を身近に感じ、衛生管理の重要性を再確認する。実験操作、レポートの書き方を修得する。		○		○		○	
	食品学 II	①食品成分を中心に、化学的構造、特性と健康上の機能について学ぶ。②食品の一次機能、二次機能、三次機能を整理し、理解する。③食品成分間の反応、消化吸収後の代謝と生理機能を理解する。			○				
					○				
	食品学 III	食品学 I・II で学んだ食品の特徴や性質を確認するために、食品実験を行う。食品の知識の定着をはかる。			○				
					○			○	
	栄養学 II	①栄養素の種類を学び、各栄養素の体内での働きを理解する。②エネルギー代謝に関与する栄養素について理解する。③健康増進のために必要な栄養素が欠乏したときにおこる病態について理解する。			○				
	公衆衛生学 II	調理師として必要とされる公衆衛生学上の知識について習得する。食育、労働と健康、調理師の職場環境、生活環境、環境条件、環境汚染とその対策について、その意味や意義、施策あるいは対応についての的確に説明できる力を身につける。			○				
					○				
	調理理論 II	①調理の基本操作を理解する。②植物性食品の化学・物理的特性を理解し調理による変化を知り、実習に活かす力を養う。	○						
	調理理論 III	動物性食品・その他の食品の化学・物理的特性を理解し調理による変化を知り、実習に活かす力を養う。		○					
			○		○				
調理理論 IV	なぜこの調理動作や材料、器具、手順、調味料が必要なのかなどの疑問が生じた時、「なぜ」に応えられる論理的思考を身につける。	○							
調理実習 II	調理実習 I に引き続き、基本的な調理技術を習得して「調理師」としての見識と教養を身につける。また、2年次に向けてスムーズな調理実習が実施できるよう、目的に合わせた器具の正しい扱い方を習得する。		○						
			○	○	○	○	○	○	

調理実習Ⅲ	西洋料理の概要を理解し、知識、技術を身につける。調理実習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識をもとに、より高度な調理テクニックを身につける。その地域の風土、文化から生まれた西洋料理の特徴を知る。	○					
		○	○	○	○	○	○
調理実習Ⅳ	食事を栄養的観点からとらえ、献立実習を行うことにより、バランスの良い食事形態を考える能力を身につける。また、全ての食事が、時間内に美味しくいただけるように作業の流れや時間配分を考慮できる力を身につける。	○					
		○	○	○	○	○	○
調理実習Ⅴ	調理実習Ⅲで学んだ西洋料理の知識と技術をもとに、より高度な調理テクニックを身につける。また、日本料理、中国料理の実習も行う。日本料理では、季節感の出し方や料理の演出の仕方を学ぶ。中国料理では、中華の食材、調理法、器具の扱い方などの基本的な料理の技術習得をする。	○					
		○	○	○	○	○	○
調理実習Ⅵ	調理師として必要なスキルを身につけ、常に安定した料理を提供できる技術力の習得を目標とする。	○					
		○	○	○	○	○	○
総合調理実習Ⅰ	集団給食を行うことで実社会での給食業務における、協調性、責任感、向上心を養うとともに、衛生観念、安全管理を身につけ、お客様の満足度を理解し、いかに高めるかの研究心と応用力を習得する。	○					
		○	○	○	○	○	○
総合調理実習Ⅱ	接客態度や言葉使い、身だしなみを整え、よりよいサービスを行う力を身につける。また、バランスの良い食事を提供し、食材の発注、管理を行う力を身につける。	○					
		○	○	○	○	○	○
製菓理論Ⅰ	製菓製パン材料の種類、特徴、性質を理解する。	○					
		○	○	○	○		
製菓理論Ⅱ	製菓製パン材料の種類、特徴、性質にあった基本製法を知る。	○					
		○	○	○	○		
製菓理論Ⅲ	製菓理論を理解し、2級洋菓子製造技能検定合格を目指す。	○					
		○	○	○	○		
製菓実習Ⅰ	基本である生地を作る・塗る・かける・絞る・切るなど、常に衛生的にできるよう学ぶ。	○					
		○	○	○	○	○	
製菓実習Ⅱ	基本で学んだ生地を作る、塗る、かける、切るなどを常に衛生的で早く、正確にできることを修得する。	○					
		○	○	○	○	○	
製菓実習Ⅲ	製菓の意義・目的・製菓操作を理論的に学び、科学的裏付けをもちながら製菓実習を行い、菓子の食生活における意義、菓子と社会、菓子の果たす役割について学ぶ。そしてその知識を活かせるようにする。	○					
		○	○	○	○	○	
製菓技能士実習Ⅰ	製菓の意義・目的・製菓操作を理論的に学び、科学的裏付けをもちながら製菓実習を行い、菓子の食生活における意義、菓子と社会、菓子の果たす役割について学ぶ。そしてその知識を活かせるようにする。	○					
		○	○	○	○	○	
製菓技能士実習Ⅱ	洋菓子製造技能検定2級試験合格を目指す。	○					
		○	○	○	○	○	
食育論	これから学ぶ食の入門編。今まで生きてきた過程で「食」について考えてきたことを更に深めて「食」が人間生活の基本であることを再確認する。食材の栄養と特徴、健康な食習慣、食のマナー、食文化、食から発生する環境問題などの「食」を学び、「食」を大切にすることを養う。		○				
		○	○	○		○	○
家計と経済	家族・家計にかかわる生活の課題を主体的に解決し、生活を充実向上させる実践的能力を身につける。家族・家計に関する家庭科の授業内容を理解する。		○				
			○	○			
食品アレルギー論	食物アレルギーの仕組み、その原因食品と引き起こされる症状、検査と治療法、低アレルゲン食について理解する。		○				
			○	○	○		
住まいと暮らし	住生活と住まいの関わり方について理解し、自らが健全な住意識や的確な住要求をもつ。		○				
		○	○	○			
HACCP・食品安全管理学	HACCPを始めとする国内外の食品安全管理システムについて具体例を交えて理解する。また、食品表示検定協会主催食品表示検定(初級)に合格を目指す。		○				
		○	○	○	○	○	○
介護食士演習	高齢者社会の中で経口栄養による「食事」の重要性を理解する。高齢者に食事を提供するために必要な食品、栄養、衛生、また高齢者の身体的特徴、心理的特徴について学び、介護食の実習を行う。この高齢者が求めている食事を提供できる知識と能力を身につける。		○				
		○	○	○	○	○	○
グリーンツーリズム	オリーブオイル作りや工場見学を経験し、食品ができていくのを実感する。小豆島オリーブ検定を受け、オリーブの知識を自分に定着させる。		○				
		○	○	○	○	○	○
家庭電気・機械及び情報処理	家庭生活に関わる技術の基礎を理解し、豊かな生活をするために、それを適切かつ安全に利用したり指導したりできる力を養う。		○				
		○	○	○			
食と自然環境	食は、素材を提供する農業や漁業、自然環境と密接に関連している。地球温暖化やごみ問題、食物連鎖などについて知識を深め、食行動を見直す。		○				
		○	○	○			○

学科専門科目

ライフサイクルと食育	人間の一生を通じて、食の重要性を理解する。人体の構造や発達、体の機能や変化を理解し、各ライフサイクルにおける食の問題点や課題を知る。		○						
衣と暮らし	衣服を構成する要素である、素材やその特性、衣服の機能を十分理解して、快適な衣生活を送ることに役立つ。	○	○	○					○
保育学	子どもの発達を理解し、状況に応じた適切なかわりを習得する。	○	○						
プロフェッショナル演習	日本の食文化を保護するプロフェッショナルを訪ね、講義、再現料理などの研修を通し、食文化伝承の重要性を知る。	○		○	○				
喫茶学演習	喫茶の歴史と文化を探る。喫茶の歴史から楽しい世界旅行をすることで食文化を学ぶ。	○						○	
衣服演習	身体の動きと衣服の関係を学習し、機能的な衣服を考え、適応する被服材料からの制作や、衣服の構成を理解し、簡単な衣服制作で基本的な知識を身につけ、計画的な作業に取り組む事ができる。	○	○						
HACCPワークショップ	HACCPの知識とHACCPプラン作成能力を身につけ、「HACCP管理者」申請資格を得る。		○	○					
食ビジネス概論	経営学に関する基礎的な理論を体系的に理解し、実際の事例に対し、適切な問題設定と分析、提言ができる。			○					
起業概論	ビジネスプランの基本的な構成要素を理解し、理解に基づいて、協働作業によりアイデアをまとめて、その結果を第三者に伝えられる。		○	○	○				
ホスピタリティ入門	ホスピタリティの基本的な概念を理解し、食の現場で役立つ、より実践的な知識の習得を目指す。	○	○			○			○
ホスピタリティビジネス	現代ビジネス業界を元気にさせる原動力とは、ヒトと位置付けて、社員・スタッフの価値観をぶれさせなく、接客するスキルについて考える。	○	○		○			○	○
食の企画と演出	絵が描けるようになることで、言葉や文字とあわせより正しく具体的に、自己のイメージを伝えることができる力を身につける。	○	○	○					
店舗デザイン演習	設計製図の基本知識と製図の技術習得をしたうえで、設計図から空間としての完成イメージを正しくつかみ、イメージボードを作成し、自分の企画した店舗をプレゼンテーションできる力を身につける。	○	○	○					
起業特論	経営管理・その他管理に関する基礎的な理論を体系的に理解し、実際の事例に対し、適切な課題設定と分析、提言ができる力を身につける。		○	○					
食の仕事研究論	食に関わる様々な業種研究を通して、それぞれの世界で求められる知識やスキルの理解を目指す。また食文化の知識が生かされる現場の声についても精査し、大学で学びの意義を再検討する。	○		○	○				
ホスピタリティマネジメント	ビジネス目的を最大に発揮できるようにお客の接点においてホスピタリティ、つまり、手厚いおもてなしをいかにして実践するかを考え、身につける。	○	○			○			
旅行観光業研究	近年、訪日外国人が急激に増加している。旅行業や観光業界の特徴、現状、さらに、問題点および課題について知る。	○	○			○			
環境・公共ビジネス研究	自分でできる小さなecoを見つけ、継続的に実行できる力を養う。			○					○
サービス業研究	サービス業の全体像を把握し、食の現場で役立つ、より実践的な知識を身につける。		○	○					○
ホスピタリティ人材育成論	ホスピタリティ・マインド溢れる立居振舞いを身につけ、かつ人材育成に必要なコーチングの考え方やスキルを学習し、先回りの気づき、「心配り、気配り、目配り」ができることを目標とする。	○	○			○			
食空間デザイン	自由な発想で「食」を総合的にイメージできるようになる。			○				○	○
食文化概論	世界の食文化について学ぶことで、文化共存のあり方に対する個人的な考えを説明できる力を養う。	○		○		○			
日本文化と食	日本の食文化に影響を与えた諸外国の概況との比較検討を通して、日本の食文化の特質を理解する。	○		○		○			○
大阪の食と文化	大阪の食と文化を知り、生活の中に活かしつつ文化の継承者となる。	○	○	○	○		○	○	○
食と近現代	革新的であった近現代の食生活の展開過程を追い、受講生それぞれが自分の言葉で、現代の「日本食」の独自性を語る力を養う。	○		○		○			
食とことば	さまざまな「食」の文字ことばによる表現を理解し、それを自らのことばとして活用できる力を養う。	○		○	○				○

	日本食と世界	受講生は、講義の最終回に、世界にアピールできる日本食の魅力について、自分の言葉で説明することができる。					○		
	フードランゲージ	食文化の理解のみならず、調理・製菓の現場で運用できる外国語の習得を目標とする。					○		○
	食糧問題概論	地球規模で食をとらえる視点を持つ。					○		○
	美食の歴史	各時代の美食文化の担い手たちの系譜を理解しながら、未来の美食のあり方について考える。					○		
	コミュニケーションと食	客へおもてなし、職人のパフォーマンスなど、飲食店の場から「食」とコミュニケーションの関係性を考察する。					○		
	食の比較文化論	食文化の多様性を理解することを目指し、世界各国の食習慣、儀礼食、タブー、名物料理、名産品を比較考察する。これらの比較を通し、守るべき日本食のあり方への洞察も深める。					○		○
	ソムリエ入門	一般社団法人日本ソムリエ協会主催ワイン検定「ブロンズコース」受験合格を目指す。					○		○
	東洋思想と食	東洋思想と「食」の関係性について基本的な知識を習得する。					○		○
	メディアと食	文芸映画作品における食の役割を考察し、それらの作品を自由に解釈する柔軟な思考を養い、論理的に文化を語る知性を培う。					○		○
就業力養成科目	ビジネスマナー入門Ⅰ	実社会に必要なビジネスマナーの基本を理解し、習得を目指す。					○		
	ビジネスマナー入門Ⅱ	実社会に必要な組織部門内でのビジネスマナーの基本を理解し、習得を目指す。					○		○
	就業力養成実習Ⅰ	学士として必要な就業力を身につけること。					○		○
	就業力養成実習Ⅱ	(北村)就業力に必要な計数能力と言語能力を習得すること、簿記の仕組みを理解し、経理関連知識を習得することを目指す。 (大前)簿記の仕組みを理解し、経理関連知識を習得する。日本商工会議所主催簿記検定3級の合格を目指す。					○		○
	インターンシップ事前事後指導	これからの就職活動に向け、実社会との接点の中で自らのWorking Lifeを考えられるようになる。					○		○
卒業研究他	食文化演習Ⅰ	各分野に関する知識と理解を深め、研究方法の方法論を学ぶことで来年度に取りかかる卒業研究の基礎を固める。					○		○
	食文化演習Ⅱ	各分野に関する知識と理解を深め、研究方法の方法論を学ぶことで来年度に取りかかる卒業研究の基礎を固める。					○		○
	卒業研究Ⅰ	卒業テーマを設定し調査する。卒業論文または卒業制作の構成を完成させ進める。					○		○
	卒業研究Ⅱ	4年間の学びの集大成として、卒業論文または卒業制作を完成させる。					○		○

食文化学部 管理栄養学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、学科の定めたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次に掲げる能力を有した者に、学士の学位を授与する。								
①. 管理栄養士として必要な知識、技能を修得し、主体的に問題解決のできる能力。								
②. 管理栄養士の立場を自覚し、多職種とコミュニケーションを図りながら連携、協働し、意欲的、創造的に活動できる能力。								
③. 教養と思いやりのこころをもって人々と接し、食行動と栄養管理について統合的に理解するとともに実践力を身につけ、健康及び医療に対して寄与できる能力。								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性	他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力							
②問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力							
③論理的思考力	様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力							
④コミュニケーション力	言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力							
⑤チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力							
⑥グローバル社会対応力	異文化を理解し、共生できる力							
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段:到達目標(DP)					
			下段:梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
社会・環境と健康	公衆衛生学 I	①健康と疾病の連続性の理解	○	○	○			
		②健康寿命の延長						
	公衆衛生学 II	③個人・集団と自然環境・社会環境の関連性の理解	○	○	○	○	○	
		④予防医学での科学と技術の構築						
	健康管理論	①個人の健康管理(セルフ・ケアまたはセルフ・コントロール)	○	○	○			
		②集団における健康管理 ③健康増進に寄与する要因が理解できる。	○	○	○	○	○	
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学 I	①細胞の一般的な構造とはたらきを説明できる。	○		○			
		②各器官の機能について説明できる。		○	○			
	解剖生理学 II	③各器官における構造とその動きとの関連について説明できる。	○		○			
		①体のしくみを調整する各器官の構造と動きについて説明できる。		○	○			
	解剖生理学実験	②人体の発生過程についての概略を説明できる。	○		○			
		③血液と免疫機構、生体防御についての仕組みを説明できる。		○	○			
	生化学 I	①人体の構造と機能について理解を確実にする。	○		○			
		②実験データを適切に評価して、判断や結果を示すことができる。	○	○	○	○	○	
	生化学 II	③実験結果の考察を通じて自ら考えて動く能力を身に付ける。						
		①細胞の構造と機能を説明できる。	○		○			
	生化学実験 I	②生体成分の構造及び性質を理解できる。		○	○			
		③代謝に関わる各酵素と酵素反応の特性を説明できる。	○	○	○	○	○	
生化学実験 II	④遺伝情報の保存と発現の仕組みを理解できる。							
	①動物やヒトの生体試料を用いて糖質、脂質の含量や酵素活性を測定でき、それら生体成分と栄養状態・疾患との関係を説明できる。	○	○	○				
疾病の成り立ち I	②遺伝子解析の方法と原理を理解し、遺伝子情報とたんぱく質の発現・構造・機能との関係を説明できる。	○		○				
	①臨床検査の種類と特性を理解する。		○	○				
疾病の成り立ち II	②生活習慣病、栄養疾患、代謝疾患等の疾病の発症や進行、病的評価や診断、治療の基本的考え方に関する知識を理解する。	○		○				
	③病原微生物の感染、防御機構を理解する。		○	○				
微生物学	内分泌疾患、消化器疾患、循環器疾患、腎疾患、神経・精神系疾患、呼吸器系疾患、血液疾患、運動器疾患、免疫・アレルギー疾患等の発症や進行、病的評価や診断、治療の基本的考え方に関する最新の知識を理解する。	○		○				
	栄養学的及び衛生学的側面のみならず、感染症という疾病の基礎知識としての微生物学を身に付ける。		○	○				

食べ物と健康	食品学 I	①食べ物と食生活を食物連鎖を含め系統的に整理し、理解できる。 ②現在の食品の分類・整理が理解できる。 ③日本食品標準成分表等の利用上の注意点を知り、活用できる。	○	○	○			
	食品学 II	①食品成分(5大栄養素)を中心に、化学的構造、特性と健康上の機能について理解できる。 ②一次機能、二次機能、三次機能を理解できる。 ③食品の成分間の反応と生理機能が理解できる。	○	○	○			
	食品学実験 I	①食品の主な成分の化学的性質が理解できる。 ②日本食品標準成分表の一般成分項目が原理を含めて理解できる。	○	○	○	○	○	
	食品学実験 II	①微量定量法による分析から、栄養の具体的な成分の性質、構造が理解できる。 ②機器分析による、より高度な栄養成分分析手法が理解できる。	○	○	○	○	○	
	食品衛生学	①食を介した様々な健康被害と、それらに対する対策についての知識を習得する。 ②食品衛生法規や衛生管理について理解する。 ③管理栄養士として必要な食の安全を総合的にマネジメントできる能力を身につける。	○	○	○			
	食品衛生学実験	①実験を通して、食品衛生学で学んだ衛生管理手法についての理解を深める。 ②基本的な食品衛生検査の技術を習得する。 ③実験結果を科学的に考察し、レポート作成できる。 ④共同実験における基本的なマナーを身につける。	○	○	○	○	○	
	食品加工学	①加工食品の製造される原理・プロセスがわかる。 ②食品加工・貯蔵の目的・方法を栄養面、安全面、嗜好面から理解できる。 ③加工食品と関連法規について理解できる。	○	○	○			
	食品加工学実習	①加工食品の製造原理が理解できる。 ②加工食品の正しい保存方法、鑑別方法が理解できる。	○	○	○	○	○	
	食文化論	①国内外の食生活を構成する要因から現代の食生活を形成する文化的背景を理解できる。 ②世界中の様々な食文化について学ぶことで、食生活に対するグローバルな見方をすることができる。	○	○	○	○	○	○
	調理学	①調理の目的や意義を理解し、調理するために必要な調理操作や調理特性について理解できる。 ②調理過程における食品の科学的变化について理解できる。	○	○	○			
	調理学実習 I	①調理器具の的確な使用方法がわかり、基本的調理操作ができる。 ②食品成分表を活用して栄養価計算ができ、栄養バランスが理解できる。 ③様式別料理の基本が理解できる。	○	○	○	○	○	
	調理学実習 II	①調理学実習 I で学んだ知識、技術をもとに、より高度な調理操作ができる。 ②新規の食材や伝統的食材を調理できる。 ③栄養バランスのよい献立を作成することができる。	○	○	○	○	○	
	調理科学実験	①科学的根拠に基づく合理的調理方法がわかる。 ②栄養性、安全性、嗜好性を高める調理方法の要点の違いが、理解できる。 ③いろいろな調理の場で、最も適切な調理方法が選択できる応用力がついている。	○	○	○	○	○	
	基礎栄養学	基礎栄養学	①栄養の歴史、遺伝的との関連が理解できる。 ②栄養素の消化、吸収が理解できる。 ③5大栄養素の栄養的役割及び疾病との関連性が理解できる。 ④エネルギー代謝の意味が理解できる。	○	○	○		
基礎栄養学実験		①栄養素の消化が理解できる。 ②栄養素の吸収後の体内代謝について理解できる。 ③基礎代謝量、エネルギー代謝の意味を理解できる。	○	○	○	○	○	
応用栄養学	応用栄養学 I	①栄養ケア・マネジメントの概念・方法を理解している。 ②食事摂取基準策定基礎理論及び活用法を理解している。 ③各ライフステージの生理的特徴とそれに対応した栄養アセスメント、栄養ケアの方法を理解している。	○	○	○			
	応用栄養学 II	①加齢に伴う身体の構造・生理的特徴に対応した、栄養アセスメント、栄養ケアの方法を理解している。 ②健康増進、疾病予防など健康への影響に関するリスク管理ができる。 ③特殊環境下における栄養ケアの方法を理解している。	○	○	○			
	栄養と身体活動	①身体活動時のエネルギー代謝や栄養状態の変化を理解し、栄養アセスメントの基本的考え方を修得する。 ②アスリートのパフォーマンス向上のための栄養アセスメント、栄養ケアの方法を修得する。	○	○	○			

	応用栄養学実習	①各ライフステージの対象者の栄養状態・検査等の情報から、正確な栄養状態の評価ができる。 ②栄養状態の結果に応じた栄養ケアが立案できる。 ③対象者の栄養改善、疾病予防・改善に寄与する栄養素・食品等を提案できる。	○	○	○			
栄養教育論	栄養教育論 I	①栄養教育の概念について知る。 ②栄養教育に用いる行動科学理論及び行動変容技法、栄養カウンセリングについて理解する。 ③栄養教育マネジメントの基礎知識と手順を理解する。	○	○	○			
	栄養教育論 II	①ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育について理解する。 ②対象に応じて、QOLの向上を目指した食に関する支援を考えることができる。	○	○	○			
	栄養教育論実習	①個人や集団についての栄養アセスメントができる。 ②栄養の問題について改善目標を立て、栄養教育を計画することができる。 ③効果的な手法や媒体を用いて、栄養教育を展開することができる。	○	○	○			
	栄養教育論演習	①栄養教育に関する知識と技術の理解を深め、課題解決能力や実践力を高める。 ②行動科学理論や行動変容技法、カウンセリング技法の活用について理解する。	○	○	○			
	臨床栄養学総論	①臨床現場となる医療・福祉等の各分野における、栄養学の意義や目的、理念、位置付け等が理解できる。 ②臨床現場において実践される栄養ケア・マネジメントシステムを活用していく医療者としての在り方や倫理について理解できる。	○	○	○			
臨床栄養学	臨床栄養学各論 I	①臨床現場における栄養ケア・マネジメントや栄養指導の実践について、様々な疾患に応じたアプローチの方法を理解できる。 ②生活習慣病について、病態や栄養生理代謝と食生活の関係を理解し一次予防の提案ができる。	○	○	○			
	臨床栄養学各論 II	①各疾患の発生機序・病態生理・臨床症状について復習しながら、複雑に絡み合った疾患に対して適切な食事・栄養療法ができる。 ②栄養ケア・マネジメントにより疾病の治療や合併症、再発を防止の為に二次予防、三次予防の提案ができる。	○	○	○			
	臨床栄養マネジメント論	①患者の栄養状態の原因や兆候を明確にしながらか栄養状態を判定できる。(栄養評価・栄養診断) ②国際標準化された用語を用いて栄養ケアプランの作成ができる。	○	○	○			
	臨床栄養学実習 I	①疾患に対し適切な栄養ケア・マネジメントや栄養指導を行うために、具体的な症例についてSGA、ODAIにもとづく実践的な栄養アセスメントができる。 ②同様に具体的な症例について、栄養ケアプラン作成と評価ができる。	○	○	○			
	臨床栄養学実習 II	①病態別に応じた栄養・食事管理のための食事療法が計画できる。 ②摂食嚥下のレベルに応じた食形態や摂取方法の立案ができる。 ③①、②に応じた特別治療食が調理できる。	○	○	○			
	公衆栄養学 I	①わが国の健康・栄養問題 ②公衆栄養活動における栄養疫学の活用方法 ③食事摂取基準の地域集団への活用 ④国民健康・栄養調査の概要や最近の結果、年次推移等について理解できる。	○	○	○			
	公衆栄養学 II	①公衆栄養関連法規とわが国の栄養政策との関連 ②健康づくり施策と公衆栄養活動の役割 ③行政における管理栄養士の業務 ④公衆栄養マネジメントプログラムの目的や方法、展開	○	○	○			
公衆栄養学実習	①公衆栄養活動の実践に必要な公衆栄養プログラムが作成できる。 ②管理栄養士として、地域・職域における総合的な公衆栄養マネジメントについて理解できる。	○	○	○				
給食経営管理論	給食経営管理論 I	①特定給食の対象と特徴を理解し、栄養・食事管理のための計画・生産・サービスを行う知識と技術を学ぶ。 ②栄養・食事管理及びサービスを運営するためのシステムの構築とマネジメントを行うための知識を修得する。	○	○	○			
	給食経営管理論 II	①栄養管理、給食管理、安全・衛生管理についての知識やマネジメントについて説明できる。 ②特定給食施設毎の栄養管理、給食管理が説明できる。	○	○	○			
	給食経営管理実習 I	①特定給食施設の栄養・食事管理における立案・計画・評価ができる。 ②安全で衛生的な食事サービスが説明できる。 ③食材の流通と生産工程が説明できる。	○	○	○			

	給食経営管理実習Ⅱ	①特定給食施設の特性と対象に合わせた献立作成できる。 ②特定給食施設の特性を把握し、業務日誌の作成、給与栄養量や残食調査等の報告書が作成できる。 ③給食での提供した食事の評価と修正ができる。	○	○	○			
総合演習	総合演習Ⅰ	①目的意識を持って、意欲的に実習に臨む。 ②管理栄養士業務の現場を知り、現場での判断や課題解決を行う能力を身に付ける。	○	○	○			
	総合演習Ⅱ	専門分野を横断して管理栄養士に必要な知識や技術を理解し、栄養評価や管理が行える総合的な能力を身に付ける。	○	○	○			
臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	①栄養部門の役割と組織を把握する。 ②給食経営を行うために必要な食事計画・栄養管理がどのようにされているか理解する。 ③調理を含めた配食サービス提供を把握する。	○	○	○			
	臨地実習Ⅱ（給食経営管理）	①実習施設における栄養部門の役割と組織を理解し、人事労務管理を把握する。 ②給食経営を行うための食事計画や配食サービス提供がどのようになされているのか理解する。 ③給食経営を行うための財務管理の実際を学習する。	○	○	○			
	臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	①保健所および市町村保健センターにおける公衆栄養活動について理解できる。 ②公衆栄養活動が、公衆栄養マネジメントサイクルにより実施されていることが理解できる。 ③行政管理栄養士の業務とその役割が理解できる。	○	○	○			
	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）	①医療機関における栄養部門の役割や組織を知る。 ②管理栄養士に求められる知識、技能、考察力、判断力等の栄養ケアマネジメントに関する専門的能力を養う。 ③チーム医療の必要性、他職種との連携、患者とのコミュニケーション、接遇態度等総合能力を養う。	○	○	○			
専門関連科目	食品栄養関連法規	①様々な食品関連法規の意義や用語を理解する。 ②過去の食品事件の事例を、関連法規の知識を利用して説明できる。 ③管理栄養士・栄養士の業務に必要な法規を関連付けられる。	○	○	○			
	調理学実習Ⅲ（調理学発展実習）	調理学実習ⅠおよびⅡで学んだ基礎的調理技術をもとに、病院、社会福祉施設、集団給食施設で栄養バランスと美味しさ、また文化や風土を見据えた応用的な調理技術や調理のコツを習得している。	○	○	○			
	食品アレルギー論	食物アレルギーの仕組み、その原因食品と引き起こされる症状、過去の事故事例と対策、検査と治療法、食品表示、低アレルゲン食などについて理解する。	○	○	○			
	日本食と世界	受講生は、講義の最終回に、世界にアピールできる日本食の魅力について、自分の言葉で説明することができる。	○	○	○			
	日本文化と食	日本の食文化に影響を与えた諸外国の概況との比較検討を通して、日本の食文化の特質を理解している。	○	○	○			
	フードランゲージ	食文化・食行動についての知識や技術を外国語を通じて理解しながら、調理・製菓および栄養管理の現場で使われる外国語の基礎を習得している。	○	○	○			
	卒業研究Ⅰ	食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、また学科の定めたカリキュラムを履修したことの集大成として、学習理解に基づく研究を行う。	○	○	○			
	卒業研究Ⅱ	食の営みを通して、健康の維持・増進、疾病の予防・回復について栄養面から取り組み、実践できる管理栄養士となるため、また学科の定めたカリキュラムを履修したことの集大成として、学習理解に基づく研究を行う。	○	○	○			
	学校栄養教育概論	①栄養教諭の成り立ちや制度など、基本的事項について理解できる。 ②栄養教諭に何が求められているかを考え、実践する力を身に付ける。	○	○	○			
	学校栄養指導論	①学校教育活動における食に関する指導について理解する。 ②食に関する指導の実践力を身に付ける。	○	○	○			

看護保健学部 看護学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)									
①いのちの尊厳と人間尊重を考え、高い倫理観に支えられた豊かで誠実な人間性。									
②社会・環境との関わりの中で生活している人を理解するための学際的な教養力。									
③その人らしく生きることを支援するための基礎的な看護専門知識・技術と実践力。									
④保健・医療・福祉に関わる多様な専門職者と連携・協働できる能力。									
⑤国際的な視野をもち、国際交流や国際協力に貢献できる基礎的な力。									
⑥看護学の発展に貢献しうる創造的・科学的探究心と生涯にわたる自己研鑽のための基礎的な力。									
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例							
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力							
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力							
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力							
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力							
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力							
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力							
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号						
			上段:到達目標(DP)						
			下段:梅花女子大学で身につける6つの力						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
人間理解の科学的基盤科目	生涯発達心理学	発達段階に照らし合わせて、精神的発達の問題が理解でき、その支援方法について考えることができるようになることである。		○					○
	健康教育論	人々の発達段階や健康課題の特性を理解し、対象に応じた健康教育の方法を理解する。対象集団への保健指導技術として演習を通して、効果的な指導方法を考えることができる。		○	○				
	セクシュアリティ論	①セクシュアリティの概念を述べるができる。②わが国のセクシュアリティに関する現状と課題を述べるができる。③看護職者としてセクシュアリティに配慮する態度について自己の考えを述べるができる。	○	○	○				
	精神保健学	精神看護の基本となる広い領域に関係しているため、常識的事柄を含め幅広く心の健康について理解する。狭義の科学よりも人間学の一部門として、また社会学の一部門としての興味をもって積極的に教科書以外の人文的知識も身につける。	○	○	○				
	協同学習力の探求	「女性と髪」を題材に、「ジグソー学習法など様々な協同学習の技法」を用いた学びを体験し、「互恵的関係の中で責任を持ち協同して学ぶ力」、「情報活用力」、「主体的学習スキルの向上」、「看護職志向を高める」ことを目指す。	○	○	○	○			○
	臨床対人関係論	これまでの分野実習の経験を振り返り、ナースと患者との「人間相互の形成作用」の展開について考え、看護が大切にしている人間性とはなにかを考える能力を修得する。	○	○	○	○	○		
	衛生学	健康障害の防止や健康の保持増進のために必要な方策について学習し、疾病予防や健康の維持・増進にとって必要な知識とその科学的証拠について理解する。	○	○	○	○			○
	公衆衛生学	公衆衛生学の意義を理解し、保健統計資料を活用できるようになり、地域における医療・保健・福祉の取り組みが分かるようになることである。	○	○	○	○	○		○
	保健統計学	記述統計から、推測統計、仮説検定について理解し、医療保健分野において、統計手法を活用できるようになることである。	○	○	○	○	○		○
	生化学	生体成分の基本的な構造と機能を知り、遺伝情報の発現の仕組みや、多細胞生物に不可欠な情報伝達の仕組みを学習することにより、巧妙・精緻な生命現象を分子レベルで把握できるとともに、疾患およびその治療についての理解を深めることができる。	○	○	○	○			
	栄養学	食品に含まれる栄養素の体内での働きと役割を理解する。各ライフステージにおける望ましい食生活を身につける。	○	○	○	○			○
	薬理学	①薬と薬物標的分子との反応様式について分子・細胞・個体レベルの観点から説明できる。②主な疾患の病態発現機序を理解し、治療薬の薬理作用機序、副作用を説明できる。③医薬品の安全な使用を説明できる。④看護師の役割を具体的に述べることができる。	○	○	○	○			○
	免疫・微生物学	①病原体の進化についての理解と遺伝子の仕組みについて説明できる。②自然免疫と獲得免疫について説明できる。③感染症を感染経路別に説明できる。	○	○	○	○			○
	形態機能論 I	人体の素材としての細胞や組織の構造と機能、さらに、骨格・筋肉系、皮膚・生体防御系、消化器系について学習し、人体がどのような構造と生理機能を持っているかを理解する。	○	○	○	○			

形態機能論Ⅱ	循環器系・呼吸器系・血液系・腎・泌尿器系について学習し、血液を中心として、血液の組成や機能、その循環や維持に必要な人体としてのシステムについて、看護師業務をイメージしながら理解する。		○	○			
形態機能論Ⅲ	主として内分泌系、神経系、生殖・発生について学習し、人体がどのような構造と生理機能をもっているかを理解する。		○	○			
臨床病理・病態学Ⅰ	主要な疾患についての知識 看護の現場において必要となる理由を考察できることを目標とする		○	○			
臨床病理・病態学Ⅱ	国家試験に合格できる知識を習得できる。		○	○			
臨床病理・病態学Ⅲ	成長発達、代表的疾患の理解と看護、日常生活での健康支援、小児医療における倫理的考察、患児家族との信頼関係の構築について理解できる。		○	○			
生命倫理学	医療における生命倫理とは何かを理解し、患者の人権を重んじ、患者にとって最善の看護とは何かを理解する一助とする。		○	○			
キリスト教の看護と倫理Ⅰ	看護師が体験する倫理的問題について理解する。患者中心の看護について述べる。		○	○			
キリスト教の看護と倫理Ⅱ	倫理的問題に対する解決を導く方法について事例検討を通して理解する。		○	○			
文化人類学	文化人類学の「ものの見方」を、自分たちの日常的な感覚に結び付ける形で理解できるようになるとともに、文化人類学と医療とのつながりについて理解することを目指す。		○	○			
社会福祉論	社会福祉・社会保障についての仕組みの理解と、生活に根ざしたケアのあり方について理解する		○	○			
老いと社会	民俗学、社会学、文学などの見地から「老い」について考察し、現代を生きる高齢者の様相について理解を深める。講義の最終には、グループディスカッションを通して「老い」に対する自身の考えをまとめ、発表することができる。		○	○			
保健医療福祉行政論	保健福祉行政の仕組みや政策の変遷について理解する。公衆衛生や社会福祉行政サービスのあり方を学ぶ。行政制度の特色を踏まえ、地域保健法に基づく今後の動向と活動を展望する。保健医療福祉施策の基礎的な知識及び技術を学ぶ。		○	○			
看護学概論	看護実践の基盤を支える看護の概念と役割を理解し、それらを各看護専門科目の理論と看護実践に活かしていくことができる。学習仲間とのディスカッションを通し、看護に対する考え方を深め看護者に必要な資質を理解し身につけていくことができる。		○	○			
基礎看護援助論Ⅰ	看護の援助技術に必要な、コミュニケーション、病床環境の整備、情報収集・観察・記録・報告、バイタルサインの測定などの基本となる看護技術を、科学的根拠にもとづいて理解し実践できる能力を修得する。		○	○			
基礎看護援助論Ⅱ	対象者の日常生活援助に必要な、教育・指導技術、移乗・移送・移動の援助技術、身体各部の清潔援助などの看護技術を科学的根拠にもとづいて理解し実践できる能力を修得する。		○	○			
基礎看護援助論Ⅲ	食事と排泄の援助技術、フィジカルアセスメント、看護過程の展開について、科学的根拠にもとづいて理解し実践できる能力を修得する。		○	○			
基礎看護援助論Ⅳ	診療時の援助技術に必要な、検査時の援助、感染防止、導尿、与薬の援助、吸入・吸引、採血、包帯法などの看護技術を科学的根拠にもとづいて理解し実践できる能力を修得する。		○	○			
基礎看護学実習Ⅰ	①看護学生としての自覚を持ち望ましい態度で実習に取り組める。②看護者のケアの実際を知り看護者の役割について考える。③看護活動の場の1つである病院の機能・構造と役割を知る。④健康障がいを持ち入院している対象者の療養環境と入院生活を知る。		○	○			
基礎看護学実習Ⅱ	①対象者と望ましい人間関係を形成できる。②対象者の健康障がいの病態、心理・社会的側面、生活面をアセスメントし、看護上の問題解決への具体的な看護援助を考えられる。③安全・安楽、個別性、自立、科学的根拠、看護倫理にもとづいた看護援助を実践、評価・考察できる。④看護者として必要な態度を養うことができる。		○	○			
成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の位置づけとその意義を理解する。そして成人各期にある人(家族を含む)の身体的・社会心理的・生活の特徴から健康問題見据える。それらを基盤に、さまざまな健康レベル(急性期、慢性期、回復期、終末期)にある対象の特徴を理論や概念を踏まえた看護の考え方を習得する。		○	○			

急性期看護論	急性期・周手術期における生体侵襲の理解を深める。①生体反応のメカニズムを理解し②急性な生体機能変化によって生じる対象者(家族を含む)の生活変化と看護課題を多角的に捉え、③具体的な課題解決策を論理的に考案する力を獲得する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○			
慢性期看護論	慢性疾患をもつ患者の身体的特徴を把握し、その身体的特徴から心理・社会的影響を理解する。慢性疾患をもつ患者が自らの生活を管理しコントロールする理論や概念の活用について理解を進める。その上で、慢性疾患をもつ患者や家族への支援の一般を探求する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○			
急性期看護援助論	IBLによる事例展開を通して、『対象者の課題(問題)発見→課題解決への目標設定→課題解決への計画作成』で展開する看護過程における推論-論証能力(問題発見解決思考力)の獲得・強化を図る。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
慢性期看護援助論	慢性疾患をもつ事例をもとに必要な情報の抽出、アセスメント、問題の特定、目標の設定、看護計画を立案し、問題解決思考を理解する。また事例にもとづき看護援助に必要な理論や概念の活用の実際を理解できる。そしてセルフマネジメントに必要な教育方法を行い、評価のプロセスを理解する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
成人看護学実習Ⅰ	生命の危機的状況にある患者の全体像を帰納的演繹的な論証を用いて多角的にとらえ、患者および家族の健康課題を明確にし、健康課題に対して根拠を持った具体的な解決計画で展開ができる力を獲得する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
成人看護学実習Ⅱ	成人期の発達段階をふまえ、患者の健康上の問題を科学的根拠に基づき理解し、慢性期・終末期にある患者に必要な看護実践の基礎的能力を修得する。また学習者・将来の看護専門職者として、ふさわしい態度や倫理観および自己の看護観を育成する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
老年看護学概論	老年期を生きる意味と価値について多角的にとらえ、加齢が身体と精神、社会的側面に及ぼす影響について理解することができる。また、高齢者をめぐる社会的諸問題を概観し、現代社会における老年看護の役割を考察できる。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
老年看護援助論	健康障害を持つ高齢者に対する看護上の課題の明確化と看護計画を立案する能力を養い、身体機能障害などによって生活能力の低下した高齢者に対する基本的な日常生活援助技術を習得する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
老年看護学実習Ⅰ	介護老人施設利用者との信頼関係及び自律性を尊重した援助的人間関係が構築でき、医療・保健・福祉の連携・協働における看護専門職の役割と責務について理解できる。また、知識と経験を関連づけながらリフレクションすることができ、継続的学習能力を修得する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
老年看護学実習Ⅱ	病院で療養している高齢者とその家族との信頼関係と、高齢者の自律性を尊重した援助的人間関係を構築する。さらに、看護計画に則った高齢者の生活機能の維持や安寧、QOLを重視した看護実践を学習する。また、高齢者の看護に必要な倫理観について理解し、実践できる。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	
母性看護学概論	①母性看護の概念・リプロダクティブヘルス/ライツの視点を理解できる。 ②女性身体の形態・機能の特徴を説明できる。 ③わが国の母性看護の変遷と現状を理解できる。 ④母性看護における法的倫理的課題と責任について理解できる。 ⑤女性のライフサイクル各期における健康課題と看護について理解できる。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
母性看護援助論	①周産期にある対象とその家族に必要な支援を行うための基礎的知識と技術を修得する。 ②事例を用いてアセスメント能力を養い、看護上の課題をウェルネスの視点で解決するための思考を学ぶ。 ③ハイリスクな状態にある周産期の対象への看護について理解する。 ④母性看護の対象における倫理的配慮について理解する。 ⑤自らの母性について関心を深める。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
母性看護学実習	①女性のライフサイクルにおける特徴、および対象(特にマタニティサイクルにある母と児とその家族)の身体的、心理的、社会的な変化を理解し、健康課題・問題を明確にして、対象に必要な看護について考察できる。 ②対象が活用できる社会資源および、対象を取り巻く保健医療チームにおける看護職者の役割について考察できる。 ③対象の尊厳、人権、プライバシーに配慮した態度をとることができる。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
小児看護学概論	小児看護の対象とその特徴を理解し、小児看護の変遷や現代社会の情勢、家族機能の変化を把握し、小児看護上の倫理観や小児看護が果たすべき役割と課題、子どもの安全について理解することができる。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
小児看護援助論	小児特有の疾患の病態や治療を理解し、健康障害を持つ子どもとその家族に必要な看護援助が実践できる基礎的能力を身につける。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	

小児看護学実習	小児看護学概論、小児看護援助論で習得した看護理論、知識、技術を踏まえ、小児の各発達段階の特徴を理解し、子どもとその家族に応じた日常生活の援助方法を学ぶ。また、健康上の問題が小児とその家族に及ぼす影響を理解し、個性に応じた看護実践の基礎的能力を養う。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○
精神看護学概論	精神の健康に影響を受けながら生きている対象者の状態を把握するための基本的事項を理解する。また対象者との援助関係における理解を深めながら、援助関係を築くためのプロセスを学習し、援助活動を展開するための基本能力を修得する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○		
精神看護援助論	①対象者—看護者の援助的人間関係を学ぶ。②精神的な問題を抱える対象者を援助するための基本的要素を理解し、対象者の個性に応じた援助が実施できる。③精神的な問題を抱える対象者への基本的な看護援助技術を習得する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○		
精神看護学実習	①心の障害を持ちながら生活する対象者を総合的に理解し、アセスメントする。②対象者の価値観や意思決定を尊重し、長期的な見通しを持つケアを展開する。③対象者と援助的人間関係を築くと共に、援助者としての自己の課題を明確にする。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
在宅看護学概論	日本の在宅看護の変遷とその社会背景を理解し説明できる。また、施設内看護と在宅看護の違いを理解したうえで、在宅看護の特徴である「療養者の生活の場」で看護を提供するために必要な知識と在宅ケアチームの一員として看護職の役割を理解することができる。	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○
在宅看護方法論	在宅看護に必要な基本的な訪問マナーや倫理観の必要性について理解できる。療養者の生活の場での看護過程の展開方法と療養者や家族への支援の必要性について理解し、その人らしさを支える援助の方法について理解できる。	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○
在宅看護学実習	訪問看護ステーションの機能と役割を理解できる。そのためには、地域の特性や療養者や家族の望む生活に就て、知り理解したうえで、効果的な看護の提供について考えることができる。また、看護だけではなく保健・医療・福祉活動の実践についても理解できる。	○	○	○	○		○
		○	○	○	○	○	○
国際看護学Ⅰ	①世界の主な健康課題について説明できる。②途上国における健康の社会的決定要因について説明できる③国際保健・看護における主要概念について説明できる。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○
国際看護学Ⅱ	①選定した国／地域の健康課題を説明できる。②選定した国／地域の健康の社会的決定要因を説明できる。③選定した国／地域の健康課題に対し、国際看護活動の計画立案プロセスを説明できる。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○
多文化共生看護学	①グローバルな視点を持ってさまざま状況下で生活している地域住民の健康問題とその背景を考慮することができる②多文化の共生と看護の国際化について理解を深める。③海外における看護活動をとらえて、看護職が携わる国際協力について考えることができる	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○
国際看護学演習 閉講科目	1. 研修国の環境・文化・社会への理解を通して、生活する人の価値観や健康問題を説明できる。2. 研修国と自国との保健医療福祉制度、看護教育、看護師の役割や活動の違いを説明できる。3. 異なる文化社会を自ら体験し、国際看護に必要な知識と感性を説明することができる。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○
災害看護学Ⅰ	災害の各段階の特徴を概観し、災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズ、看護職の役割、国内外の災害看護活動について学ぶ。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○
災害看護学Ⅱ	災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズ、看護職の役割、国内外の災害看護活動について具体的に学び、イメージできるようになる。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○
災害看護学演習	災害サイクルに応じた看護活動に必要な援助を理解できる。災害状況下で活動するための基本的な技術を修得する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○
公衆衛生看護学Ⅰ	地域で生活する人々の健康増進と疾病予防を目指す公衆衛生看護の目的・理念を理解する。公衆衛生看護活動の対象である個人・家族・集団・地域について学習し、公衆衛生看護活動の場の特性を理解し、保健医療福祉の関係機関や住民との協働により対象者の主体性に働きかける公衆衛生看護の役割・機能を理解する。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	
公衆衛生看護活動論Ⅰ	地区踏査を行うことで地域に住む住民の健康に自然、社会・文化、生活環境が密接に結びついていることを理解するとともに、公衆衛生看護活動の基本となる地区視診する能力を身につける。また、地区踏査においては、グループで計画、実施し、地区踏査結果を発表することで、チームで協働学習ができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	
看護研究方法論	看護研究を行うにあたっての、意義や倫理を理解し、データ収集・分析・解釈し、結果を研究レポートにまとめることができるようになることである。	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○

	総合実習	①自己課題を明確にし、実習に取り組める ②複数の対象や事象に対し、優先順位・時間管理・安全を考慮した看護を実践し、評価ができる。 ③医療安全対策と危機管理体制の実際を知る。 ④保健医療福祉チームの一員としての看護の役割を学ぶことができる。 ⑤専門職としての倫理について考えることができる。 ⑥総合実習をととして、今後の自己課題を明確にする。	○	○	○	○	○	○
	感染看護論	①感染の成立の機序を理解し、段階ごとの感染防止対策が説明できる。②標準予防策、経路別予防策の概念が説明できる。③感染症は発生時の対応策を説明できる。④流行性疾患の潜伏期間、感染防止対策が理解できる。⑤医療従事者の職業感染防止対策の説明ができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	家族看護学	家族看護とは何かについて説明できる。家族のとらえ方について学習し、家族アセスメントを理解する健康上の課題が患者と家族に及ぼす影響を理解し、援助を考えることができる。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
看護管理・リスクマネジメント論	①管理、看護管理、リスクマネジメントの概念が理解できる。②ナイチンゲールの「小管理」を理解し、看護実践のマネジメントをシステムとしてとらえることができる。③人的・物的資源管理の概念が理解できる。④患者、職員、組織を守る医療安全が理解できる。⑤自分のキャリアは自分で磨くことが理解できる。	○	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○	
助産論	①助産の概念、助産の歴史、助産師の専門職性と役割、日本および世界の助産師の活動状況、助産師の法的責任と倫理について理解する。 ②各種助産師養成課程およびカリキュラムの特徴を理解する。	○	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○	
養護に関する科目	学校保健	学校保健の構造、役割について学ぶことによって、養護教諭の専門性を捉えながら、学校内・外の関係機関との連携、協働して現代の健康課題を解決していくことを理解することができる。	○	○	○	○		
	養護概論	養護教諭の専門性のある職務内容を学ぶことによって、学校教育の学校保健の中核的役割を担うことができるよう実践できる力を身につける。また子どもの成長に向けて、問題意識をもって取り組むことができる力をつける。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
健康相談の理論及び方法	多様な健康課題を抱える子どもへの養護教諭が行う健康相談として、子どものSOSのサインを逃さず問題解決するために背景を理解し、実践できるよう習得する。またコミュニケーション力を高め、他職種と連携できるコーディネーター力を養う。	○	○	○	○			
保健師課程に関する科目	産業保健学	・産業保健の目指すものを理解し、その重要性を認識する。 ・産業保健の動向と現状を理解し、健康課題を認識する。 ・産業保健の推進体制と推進活動に係わる基礎知識を習得する。 ・産業保健における看護職の役割と職務を理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	公衆衛生看護学Ⅱ	対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指す公衆衛生看護の理念、行政機関における公衆衛生看護活動の特質を理解する。公衆衛生看護の歴史的背景、人々の健康を取り巻く環境の変化に応じた公衆衛生看護活動の展開方法、健康危機管理やリスクマネジメント、公衆衛生看護管理について理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	人々の発達段階や健康課題の特性を理解し、対象に応じた公衆衛生看護活動の展開方法を理解する。個人・家族への保健指導技術として家庭訪問演習を行い、家庭訪問の特性を理解し、効果的な指導方法を考えることができる。対象集団全体の健康課題の診断、活動計画の立案、実施、評価の方法である地域診断の方法を理解する。	○	○	○	○	○	○
			○	○	○	○	○	○
	公衆衛生看護学実習	地区踏査により地域の生活実態から健康課題を考え、健康課題と各種保健活動とのつながりを理解し、健康課題の解決方法を考えることができる。家庭訪問や健康教育を実施し、個人・家族・集団への支援方法を理解する。また、実習全体を通して行政機関における公衆衛生看護活動である地区活動の展開方法について理解する。	○	○	○	○		○
○			○	○	○	○	○	
産業保健学実習	* 公衆衛生看護学実習・産業保健学実習として単位認定となる 事業所で働く従業員の生活実態を把握し、健康課題を考えることができる。健康課題と各種保健活動とのつながりを理解し、健康課題解決方法を考えることができる。健康課題の解決方法として、個人・家族・集団(職場)への支援活動を理解し、産業保健活動のあり方と産業看護職の役割を考えることができる	○	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○	

看護保健学部 口腔保健学科カリキュラムマップ

I 学科の到達目標(DP:ディプロマポリシー)								
① キリスト教の愛の精神に基づき、生命の尊厳と他者への奉仕に貢献できる豊かで誠実な人間性。								
② 口腔保健学の専門的知識と実践能力を身につけ、主体的に問題を分析、解決し、口腔保健を通じて全身の健康支援が行える能力								
③ コミュニケーション能力を備え、医療・保健・福祉等の関連職種と連携し協働関係を構築できる社会性と協調性								
④ ヘルスプロモーションの理念を理解し、個人のみならず地域保健医療にも貢献できるリーダーシップとヘルスマネジメント能力								
⑤ グローバル社会に対応できる行動力と、それを支える創造と科学的探究心の基礎力								
II 梅花女子大学で身につける6つの力		6つの力の具体的内容の一例						
①豊かな人間性		他者を思いやる心や奉仕の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動する力						
②問題解決力		問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析し、それを解決する力						
③論理的思考力		様々な学問分野における知識を修得し、それを活用して物事を論理的に考え、判断する力						
④コミュニケーション力		言葉や身体、ICT等を通して自己を表現し、他者との相互理解を深める力						
⑤チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動する力、他者に方向性を示し目標の実現を図る力						
⑥グローバル社会対応力		異文化を理解し、共生できる力						
科目群	科目名	科目の到達目標	DP及び6つの力の項目番号					
			上段：到達目標(DP)					
			下段：梅花女子大学で身につける6つの力					
			①	②	③	④	⑤	⑥
専門基礎分野	解剖学	まず人体構造の生物学的意義を理解する。次に人体を構成する細胞と組織の形態に関する知識を身につける。さらに各器官と器官系についての構造を概説できる。また組織・発生についての概要を理解する。	○	○		○		
	生理学	①人体の生命維持のための営みについて植物機能と動物機能に分けて理解する。②人体を構成する細胞の働きを説明できる。③細胞の集まりである各組織の働きを概説できる。④各器官と器官系についてのそれぞれの働きを概説できる。		○			○	
	生化学	①生体の構成要素を列挙し説明できる。②生体における化学反応を説明できる。③糖質、脂質、タンパク質とアミノ酸の代謝を説明できる。④生体における恒常性の維持を概説できる。⑤歯と歯周組織の構成要素とその代謝を説明できる。⑥唾液とプラークを説明できる。		○	○			○
	栄養学	QOL向上のため、栄養について学び、食生活における留意点について考える。	○	○	○	○	○	
	口腔解剖学	まず頭頸部の基本的な構造を概説できることが大切である。さらに歯と歯周組織の構造を説明できること、歯の形を立体的に理解し、図に書いて再現できることも重要である。つまり一本の歯を見たときに、それがどの部位の歯であるか説明できるようになることである。	○	○	○	○		
	口腔組織・発生学	まず鰓弓についての概念を理解することが必要である。さらに歯の発生をステージを追って理解し、歯の硬組織(象牙質・エナメル質・セメント質)と歯周組織の組織学的特徴を説明できることが重要な目標である。	○	○	○	○	○	
	口腔生理学	①歯と口腔の感覚について概説できる。②下顎の運動について概説できる。③唾液の分泌機構と機能について概説できる。④摂食と嚥下の機序を概説できる。⑤言語音の産生機序を概説できる。		○	○			○
	病理学・口腔病理学	①病気の原因と種類を理解する。②病気の成り立ちを理解する。③う蝕の成り立ちと特徴を理解する。④歯周病の成り立ちと特徴を理解する。⑤口腔粘膜、顎骨、唾液腺などの口腔の病気の成り立ちと特徴を理解する。		○	○			○
	免疫・微生物学	微生物を通して遺伝、生と死などの生命現象、微生物と環境との関係、ウイルスから細菌、真菌を中心とする病原体がヒトに起こす感染症の種類と症状、治療の概要を理解する。また宿主-寄生体相互作用としての免疫学とアレルギー学の基本を理解し、感染防御と保健衛生管理が説明できる。		○	○			○
	薬理学・歯科薬理学	薬剤の有用な作用だけでなく、副作用も認識したうえで、各々の症例に対して適切な薬物療法がおこなわれる必要がある。また、薬物投与中の患者を診療する際にも、その薬理作用を理解している必要がある。本講義では、これらの要求に応えられるな基礎的知識を習得する。		○	○			○
	口腔衛生学	①歯・口腔の健康と全身の健康との関わりが説明できる。②歯・口腔の正常な形態や組織構造とその働きを説明できる。③う蝕の病因と予防法を説明できる。④歯周疾患の病因と予防法を説明できる。⑤歯科疾患の統計や指標を説明できる。	○	○	○	○		
	衛生学	①健康と予防医学の概念を理解する。②わが国の人口・保健統計の意義や指標の動向が説明できる。③環境と健康との関わりが理解できる。④感染症と生活習慣病の予防対策が説明できる。⑤疫学の役割と疫学分析に必要な統計学の知識を習得する。	○	○	○	○	○	○

公衆衛生学	① 地域保健と公衆衛生の概念を理解する。② 地域保健行政の関連法規と組織について説明できる。③ 地域保健活動の基本的な進め方を説明できる。④ ライフステージごとの地域保健活動を説明できる。⑤ ライフステージごとの地域歯科保健活動を説明できる。	○	○	○	○		
		○	○		○	○	
プレゼンテーション演習	特定の条件・テーマに基づいたプレゼンテーション資料を自ら作成でき、さらに実際に人前でプレゼンテーションを行い、聞いている人にプレゼンテーションの主旨や内容を正しく伝えることができ、理解してもらえる技術を習得する。	○		○	○	○	
			○	○	○	○	○
社会福祉論	社会福祉の理念や法体系、制度、サービス体系について理解するとともに口腔保健と社会福祉との関連について理解を深める。			○			
			○	○			
精神保健学	①精神保健学の全般的な知識の習得 ②自らのワーク・ライフ・バランスに注意を向け、メンタルヘルスの調和を図り、できることを実践	○		○	○		
		○	○	○	○	○	
学校保健	学校保健の構造、役割について学ぶことによって、養護教諭の専門性を捉えながら、学校内・外の関係機関との連携、協働して現代の健康課題を解決していくことを理解することができる。	○	○		○		
		○	○	○			
健康教育論	①健康教育の目指すものを理解し、その重要性を認識する。②健康教育を支えてきた理論とモデルを理解する。③健康教育の展開方法について考えることができる。④効果的な健康教育のあり方について考えることができる。			○	○		
		○	○	○	○	○	
健康相談の理論及び方法	多様な健康課題を抱える子どもへの養護教諭が行う健康相談として、子どものSOSのサインを逃さず問題解決するために背景を理解し、実践できるよう習得する。またコミュニケーション力を高め、他職種と連携できるコーディネーター力を養う。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○
公衆衛生看護学	①公衆衛生看護の概念、機能、役割を理解する。 ②公衆衛生看護の特質を歴史的背景、行政組織、展開方法から理解する。			○	○		
		○	○	○	○	○	
産業保健学	①産業保健の目的、動向、健康課題を理解する。 ②産業保健の推進体制と活動に関する基礎知識を習得する。 ③産業保健スタッフの役割と職務を理解する。			○	○		
		○	○	○	○	○	
高齢者福祉入門	高齢者の実態や生活の保障内容、地域の社会資源、多様な高齢者の存在を理解するとともに高齢者福祉の支援のあり方について考える力を身につける。			○			
			○	○	○		
障がい者福祉入門	障がい者の実態や生活の保障内容、地域の社会資源、多様な障がい者の存在を理解するとともに障がい者福祉の支援のあり方について考える力を身につける。			○			
			○	○	○		
ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインに関する基礎知識を理解し、バリアフリーとユニバーサルデザインの差異を把握する。実際に自ら課題のデザインを作成し、理解した上でユニバーサルデザインのこれからの追究する。	○		○	○	○	
		○	○	○	○	○	○
対人看護援助論	①対人看護援助に関するモデル、理論の知識を得る。②看護コミュニケーション技術の幾つかを修得する。③看護コミュニケーション技術を実践に生かす。④自己理解、他者理解の手法を身につける。	○		○	○		
		○	○	○	○		
養護概論	養護教諭の専門性のある職務内容を学ぶことによって、学校教育の学校保健の中核的役割を担うことができるよう実践できる力を身につける。また子どもの成長に向けて、問題意識をもって取り組むことができる力をつける。	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○
口腔保健学概論	①歯科衛生士の定義を認識する。②歯科衛生士法と歯科衛生業務の関連を理解できる ③医療倫理と患者の権利を理解できる。④コミュニケーション能力の必要性を理解できる。⑤多職種連携とチーム医療を理解できる。⑥グループ課題に取り組み発表できる。			○	○	○	
		○	○	○	○	○	
臨床歯科医学概論	歯科衛生士に必須の歯科保健と歯科医療の大筋を把握し、医療者の義務と責任からライフステージ別の歯科保健と歯科医療の特質、歯科診療で行われる医療面接から検査、診察、治療と予後観察・管理まで、保健指導、予防処置と診療補助に至るまでの概要が説明できる。	○	○	○	○		
		○		○	○	○	
歯周病学	①歯周病の基礎的知識を説明する。②歯周病と全身疾患の関係を説明する。③歯周治療の概要を説明する。④歯周病の検査を説明する。⑤歯周基本治療を説明し、口腔衛生指導を実施する。⑥歯周外科治療を説明する。⑦メンテナンスについて説明する。⑧歯周病とインプラント治療について説明する。			○		○	
			○	○			
歯科保存学	歯を保存することの重要性を認識し、そのための検査・診断および治療方法について説明できる。			○		○	
			○	○			
歯科補綴学	歯科補綴治療について理解し、歯科衛生士業務を実践できるようにします。			○		○	
			○	○			

口腔外科学・麻酔学	歯科領域に発生する様々な疾患について診断が出来るよう基本的な知識を身につけ、疾患について具体的に患者に説明できる。また、患者の全身状態評価法を習得し、治療中のモニタの目的、使用法、結果の評価法を身に付ける。さらに緊急時の対応におけるチーム医療の目的、歯科衛生士の役割を理解する。		○				○	
小児歯科学	胎生期から乳児、幼児、学童、思春期と青年期までの心身の成長、発達を理解し、次いで成長期の歯と歯列の変化を学びながら、小児期の歯科・口腔疾患とその予防法と治療法を理解する。併せて、個人および集団を対象とする母子歯科保健、歯科口腔衛生管理について知識と基本的技能を習得する。	○	○	○	○			
歯科矯正学	①歯、歯列、咬合の役割を説明できる。②年齢に応じた正常咬合を説明できる。③不正咬合の種類、原因と障害、矯正治療の目的を説明できる。④矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。⑤矯正装置の名称、構造、機能及び使用器具について説明できる。⑥矯正治療時の、適切な口腔内管理方法を説明できる。		○				○	
高齢者・障害者歯科学	歯科衛生士の専門業務である歯科保健指導、予防処置と診療補助を行う対象には、さまざまな病気や障害のある人と高齢者も含まれるので、このような障害や老化に伴うスペシャルニーズのある人の口腔の器質的特徴と機能的変化を理解し、それに対応できる基本的技能を習得する。	○	○	○	○			
歯科英語	歯科衛生士が歯科保健・医療のプロフェッショナルとして、口腔保健指導、予防処置、歯科診療補助の場面で活躍できるよう、専門領域の知識と技術を英語で読み、聴き、話し、書いて習得できるよう、またコミュニケーションがはかれるように基本的な語彙力と表現力を身につける。	○				○	○	○
歯科予防処置論	① 歯科予防処置の概念と法的位置づけを理解する。② 歯科予防処置の対象者の把握方法と評価方法を説明できる。③ う蝕と歯周病の原因、分類、進行過程、予防法を説明できる。④ 歯科予防処置時に起こりうる不fast事項に対する予防法と適切な対応を説明できる。	○	○	○	○			
歯科予防処置Ⅰ	歯周病予防を目的とした諸検査や評価方法および予防的歯石除去を行うための基礎的な知識と技術を修得する。専門職として口腔疾患予防に携わる歯科衛生士の果たす役割を考えるとともに、歯科衛生介入の方法を学ぶ。	○	○	○			○	○
歯科予防処置Ⅱ	う蝕予防を目的としたフッ化物歯面塗布法や小窩溝充填法などの基礎知識や技術の修得する。さらにう蝕活動性試験や口腔内診査などの結果を分析して症例検討を行い、問題発見および問題解決力を高める思考スキルを身につける。	○	○	○	○			
歯科予防処置Ⅲ	歯科衛生士が行う歯周疾患予防処置としてのスクレーピングおよびルートプレーニングスキルを修得するとともに、口腔疾患予防管理の必要性を理解する。	○	○	○	○			○
顎・口腔リハビリテーション	リハビリテーションの意義を理解し、摂食嚥下にかかわる構造(解剖)を説明できる。また、摂食嚥下に関わる各種検査方法を理解し、口腔ケアの方法および要介護者に対する対応及び、術法の技術を習得する。	○	○	○	○			
口腔保健指導論	①歯科保健指導の必要性、健康の概念について理解し、各ライフステージにおける情報把握の必要性およびその方法を概説できる。②歯科衛生士が行う口腔ケアについて理解すると共に、対象者に合わせた歯科保健指導ができる。③グループで課題に取り組み、発表ができる。	○	○	○	○			
歯科健康教育Ⅰ	①「自分自身の口腔管理ができる。②個人、小集団における指導方法の違いを習得する。③対象者の特徴を理解し、ライフステージに応じた問題解決方法を立案できる。④学校保健における養護教諭の役割を理解できる。⑤グループ課題に取り組み発表ができる。	○	○	○	○			○
歯科健康教育Ⅱ	①コミュニケーションの基本的知識・技術・態度の修得する。②自己理解及び他者理解、コミュニケーションによる相互作用とその意義を理解する。③コミュニケーションの基本的態度を学びを通して、自分の考えを表現できる技術を修得する。			○			○	○
口腔保健指導演習Ⅰ	①高齢者や障がい者の医療・福祉制度等システムを理解する。②高齢者の歯科診療において配慮すべき点を理解する。③歯科訪問診療について説明できる。④高齢者の歯科保健指導にかかわるアセスメントを理解する。⑤高齢者の口腔ケア時の留意点について説明できる。		○					
口腔保健指導演習Ⅱ	①高齢者、障がい児・者を取り巻く社会を理解し、福祉、保健、医療の各方向から支援できる②、高齢者、障がい児・者を知り、生活の中における口腔ケアの指導ができる③他職種連携の重要性、在り方を知る④高齢者、障がい者における歯科衛生過程の基礎を理解する	○	○	○	○			
		○	○	○	○		○	

口腔保健指導演習Ⅲ	①栄養学の基礎知識が理解できる。②ライフステージごとの栄養摂取について理解でき歯科保健指導にいかせる。③様々な生活習慣病と食事の関係について理解し、歯科保健指導ができる。④対象者に合わせた食育方法・食生活指導ができる。	○	○	○	○		
口腔保健指導演習Ⅳ	保健に関する様々な問題を解決に導くための有効な手段としてパソコンを用いてイラストや動画を作成し、様々な行動プロセスを具体的に表現・説明できる技法を身に付けていく。	○	○	○	○		
歯科診療補助論	①歯科衛生士法における歯科診療の補助業務を理解し、補助と介助の違いを説明できる。②医療安全の定義および感染予防について述べる事ができる。③歯科診療のステップおよび共同動作を理解し動作時の器具器材の受け渡しについて考察できる。④在宅訪問歯科診療の補助について説明することができる。	○	○	○	○	○	
歯科診療補助基礎	①歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解する。②安全かつ円滑な共同作業を実践できる。③主要歯科材料(器具も含む)の取り扱いができる。	○	○	○	○	○	
歯科診療補助演習	①歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解する。②安全かつ円滑な共同作業を実践できる。③主要歯科材料(器具も含む)の取り扱いができる。	○	○	○	○	○	
歯科材料学	最新の歯科材料および生体材料の組成、構造、特性、ならびに臨床での有用性等を説明できる。	○	○	○	○	○	
歯科放射線学	歯科衛生士となるために必要な歯科放射線学について学び、歯科臨床で活かせるようになる	○	○	○	○	○	
感染予防学	歯科衛生士が行う業務のほとんどは、口腔の感染症であるう蝕と歯周病が対象の保健指導、予防と診療補助であり、病原微生物の管理が重要であるため、関連の衛生機器と材料の洗浄、消毒、滅菌および環境と生体の衛生管理に関して説明できて、知識と基本的技能を修得する。	○	○	○	○		○
看護学概論	歯科衛生士に必要と考えられる看護学的視点と看護基礎知識を習得する。	○	○	○	○	○	
看護技術演習	①看護援助に必要な基本的な知識・技術・態度を修得する。②養護教諭・歯科衛生士の立場として、学んだことを応用する。	○	○	○	○	○	
基礎実習	①実習生としての自覚を持ち、望ましい態度で実習に取り組むことができる。②歯科衛生士の役割について考えることができる。③歯科診療所の機能・役割を知ることができる。	○	○	○	○	○	
臨床臨床実習Ⅰ(一般歯科診療所)	歯科診療所における臨床実習を通して、歯科診療の流れや歯科用器材、薬剤などの取り扱い方法などを修得するとともに、歯科衛生士が行う口腔疾患予防管理業務の理解を深め、地域口腔保健を担う歯科衛生士の役割を認識する。	○	○	○	○	○	
臨床臨床実習Ⅱ(専門歯科診療所)	①スタッフとの協働、連携した対象者へ対応ができる。②対象に応じて配慮した対応ができる。③医療安全管理に配慮した行動ができる。④患者からの要求や相談内容を判断し、適切な応接ができる。⑤対象者に応じた健康維持増進の保健管理指導ができる。⑥スタッフや患者と良好なコミュニケーションがとれる。	○	○	○	○	○	
臨床臨床実習Ⅲ(病院歯科)	①多職種連携、チーム医療が理解できる。②医療安全管理に配慮した行動ができる。③対象者の守秘義務を遵守できる。④資料やデータから歯科衛生業務の内容を判断できる。⑤対象者に応じた保健管理指導ができる。⑥全身疾患を持つ患者に配慮した対応ができる。	○	○	○	○	○	
地域歯科保健実習Ⅰ(障害者・高齢者施設)	①障がいの種類と歯科的特徴を理解する。②対象に応じて配慮した対応ができる。③発達段階に応じた口腔保健推進支援を展開する。④高齢者施設の概要、機能と社会的な役割について学ぶ。⑤施設での高齢者の生活について理解し、コミュニケーション方法、食事介助、口腔のケアの実際を習得する。	○	○	○	○	○	
地域歯科保健実習Ⅱ(保健施設)	①各地域の特性に応じた住民の生活のありようや健康課題を理解し、地域保健活動の実際を体験する。②ライフサイクルに合わせた地域歯科保健活動や、様々な健康課題に取り組む地域歯科保健活動を理解する。③地域住民とのパートナーシップの形成及び保健・福祉・医療の専門職の効果的な協働関係を学ぶ。	○	○	○	○	○	
地域歯科保健実習Ⅲ(教育機関)	①子どもの成長発達に応じた様々な健康課題を理解すると共に、健康課題に取り組む歯科保健活動を理解する。②対象者に応じた健康維持・増進の保健管理指導ができる。③集団を対象に歯科健康教育を実践できる。④児童・生徒のライフスキルを高める。⑤対象者に応じて配慮した対応ができる。	○	○	○	○	○	
臨床看護実習	①対象者(家族)の症状や生活における反応や病気に対する思いや抱えている問題に関心に向ける。②対象者の病態や臨床所見と対象者の反応や思いを関連付けて理解する。③コミュニケーションや日常生活援助等を通して、対象者の病いの体験を理解する。④医療者として基本的な態度(倫理的態度)を身につける。	○	○	○	○	○	

口腔保健研究演習 I	口腔保健学で学んだ専門的理論と知識、人々のライフステージやコミュニティに対応した口腔保健推進の視点をもとに、適切な研究テーマを確定し、研究に必要な基礎知識と技能を習得する。	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○
口腔保健研究演習 II	研究活動を行いつつ一定のエビデンスに基づく研究テーマについての調査を実施し、論理的思考能力の醸成をはかるとともに、口腔保健学を科学的に推進する能力を身につけ、それらを発表することができる。	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	○	○